

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和5年6月30日
【計算期間】	第67期中（自 令和4年10月1日 至 令和5年3月31日）
【ファンド名】	デーヴェーエス・イーエスジー・インベスタ (DWS ESG Investa)
【発行者名】	デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー (DWS Investment GmbH)
【代表者の役職氏名】	法務部シニアマネージャー エレーナ・ドロズドフ (Elena Drozdov) 法務部シニアマネージャー アントニア・セルキンスキ (Antonia Selkinski)
【本店の所在の場所】	ドイツ連邦共和国 60329 ヘッセン州、フランクフルト・アム・マイン マインツェル・ラントシュトラッセ11-17 Mainzer Landstraße 11-17, Frankfurt am Main, Hessen, Germany 60329
【代理人の氏名又は名称】	弁護士 石澤 芳朗 弁護士 大江 弘之
【代理人の住所又は所在地】	東京都大田区山王 2 - 1 6 - 7 石澤法律事務所 東京都千代田区霞が関3-2-6 東京倶楽部ビルディング8階 奥・片山・佐藤法律事務所
【事務連絡者氏名】	弁護士 大江 弘之
【連絡場所】	東京都千代田区霞が関3-2-6 東京倶楽部ビルディング8階 奥・片山・佐藤法律事務所
【電話番号】	03 - 6550-8127
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

1【ファンドの運用状況】

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー(DWS Investment GmbH)(以下「DWS」又は「管理会社」という)により管理運営されているデーヴェーエス・イーエスジー・インベスタ(DWS ESG Investa)(以下「ファンド」という)の2023年5月31日現在の運用状況は次のとおりである。

(1)【投資状況】

ファンドの資産別および地域別投資状況は次のとおりである。

資産別投資状況(2023年5月31日現在)

投資対象	時価	投資比率 (%)
	千ユーロ	
株式	3,421,469	96.96
その他投資資産	96,747	2.74
現金・その他 (負債差引後)	10,558	0.30
合計(純資産総額) (邦貨)	3,528,773 (529,457百万円)	100.00

地域別投資状況(2023年5月31日現在)

投資地域 (発行地)	時価	投資比率 (%)
	千ユーロ	
ドイツ	3,357,976	95.16
アイルランド	93,832	2.66
オランダ	39,697	1.12
ルクセンブルク	26,710	0.76
オーストリア	0	0.00
小計	3,518,215	99.70
現金・その他 (負債差引後)	10,558	0.30
合計(純資産総額) (邦貨)	3,528,773 (529,457百万円)	100.00

(注)本書中に「EUR」とあるのはすべてユーロを意味する。本邦通貨への換算は、2023年5月31日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値(1ユーロ=150.04円)による。以下、円金額表示はすべて上記の換算率による。

(2) 【運用実績】

【純資産の推移】

2023年5月31日及び同日前1年以内の各月末におけるファンド(LDクラスのみ)の純資産総額及び1口当たり純資産価額は次のとおりである。

	純資産総額		1口当たりの純資産価額	
	ユーロ	邦貨	ユーロ	邦貨
	百万EUR	百万円	EUR	円
2022年6月末	2,844.0	426,719	155.39	27,450
7月末	3,044.6	456,817	166.45	23,315
8月末	2,910.7	436,716	159.11	24,974
9月末	2,670.3	400,653	146.04	23,873
10月末	2,949.5	442,538	161.35	21,912
11月末	3,234.8	485,355	175.48	24,209
12月末	3,109.5	466,555	168.93	26,329
2023年1月末	3,417.8	512,805	186.04	25,346
2月末	3,476.0	521,542	189.10	27,913
3月末	3,455.9	518,528	188.39	28,373
4月末	3,448.5	517,407	188.34	28,266
5月末	3,440.1	516,145	188.48	28,259

【分配の推移】

2023年5月31日前1年間に支払われたファンドの分配金は次のとおりである。

1口当たり分配金
2.30ユーロ

(注) 投資家が実際に受け取る金額は、居住国によって異なる場合がある。

【収益率の推移】

2023年5月31日までの1年間における収益率は4.28%である。

計算式は次のとおりである。

2023年5月末の1口当たり純資産価額 + 2023年5月末前1年間に支払われた分配金の合計額
- 2022年5月末の1口当たり純資産価額

2022年5月末の1口当たり純資産価額

× 100

2【販売及び買戻しの実績】

2022年6月1日から2023年5月31日までの期間におけるファンド(LDクラスのみ)の販売及び買戻しの実績ならびに2023年5月31日現在の発行済口数は次のとおりである。

販売口数	買戻口数	発行済口数
842,289 (0)	904,497 (2,245)	18,296,494 (22,418)

(注) 括弧内は日本国内における販売及び買戻しの実績ならびに発行済口数である。

3【ファンドの経理状況】

a. 本書記載のデーヴェーエス・イーエスジー・インベスタ(旧デーヴェーエス・インベスタ、以下「ファンド」という。)の邦文の中間財務書類(以下「邦文の中間財務書類」という。)は、ドイツ連邦共和国における諸法令及び一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成された原文の中間財務書類(以下「原文の中間財務書類」という。)の翻訳に、下記の円換算額を併記したものである。ファンドの中間財務書類の日本における開示については、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。)第76条第4項ただし書の規定が適用されている。

邦文の中間財務書類には、中間財務諸表等規則に基づき、原文の中間財務書類中のユーロ表示の金額のうち主要なものについて円換算額が併記されている。日本円への換算には、2023年5月31日の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値、1ユーロ=150.04円の為替レートが使用されている。なお、円未満又は百万円未満の金額は四捨五入されている。

b. 原文の中間財務書類は、外国監査法人等(「公認会計士法」(昭和23年法律第103号)第1条の3第7項に規定されている外国監査法人等をいう。)から、「金融商品取引法」(昭和23年法律第25号)第193条の2第1項第1号に規定されている監査証明に相当すると認められる証明を受けていない。

(1)【資産及び負債の状況】

デーヴェーエス・イーエスジー・インベスタ

純資産計算書(2023年3月31日現在)

	金額(ユーロ)	対純資産比率(%)
・資産		
1. 株式(セクター):		
工業	718,302,038.16	20.27
金融	639,059,486.42	18.03
情報技術	593,076,591.79	16.73
耐久消費財	522,054,105.79	14.73
ヘルスケア	337,242,556.21	9.51
原料	252,389,273.90	7.12
通信サービス	226,291,416.45	6.38
公益事業	92,548,469.38	2.61
生活必需品	48,776,043.04	1.38
その他	27,791,100.00	0.78
株式合計:	3,457,531,081.14	97.54
2. 投資ファンド証券	77,133,799.99	2.18
3. 銀行預金	13,874,804.36	0.39
4. その他の資産	143,358.83	0.00
・負債		
1. その他の負債	-4,109,263.80	-0.11
・純資産	3,544,573,780.52 (531,828百万円)	100.00

比率の計算に際して四捨五入により僅少な差異が生じることがある。

純資産明細表(2023年3月31日現在)

有価証券銘柄	単位 又は 通貨 (千)	残高	当期		時価	時価合計 (EUR)	対純資産 比率 (%)	
			購入/増加	売却/減少				
取引所売買有価証券						3,457,531,081.14 (518,768百万円)	97.54	
株式								
7C Solarparken (DE000A11QW68)	株	511,571		589,154	EUR	3.7100	1,897,928.41	0.05
ABO Wind (DE0005760029)	株	142,048		63,503	EUR	79.0000	11,221,792.00	0.32
adidas Reg. (DE000A1EWW0)	株	340,000	11,000	135,000	EUR	159.9800	54,393,200.00	1.53
Allianz (DE0008404005)	株	1,308,738	60,738	34,927	EUR	212.8000	278,499,446.40	7.86
BASF Reg. (DE000BASF111)	株	1,789,695		950,305	EUR	48.3000	86,442,268.50	2.44
Bayer (DE000BAY0017)	株	1,650,000	559,041	393,000	EUR	58.8000	97,020,000.00	2.74
Bechtle (DE0005158703)	株	1,154,000			EUR	43.9600	50,729,840.00	1.43
BEFESA (LU1704650164)	株	404,006	404,006		EUR	41.1000	16,604,646.60	0.47
Beiersdorf (DE0005200000)	株	232,541	160,541		EUR	120.0000	27,904,920.00	0.79
BMW Ord. (DE0005190003)	株	954,000		214,600	EUR	101.0400	96,392,160.00	2.72
BMW Pref. (DE0005190037)	株	698,369		96,631	EUR	94.5500	66,030,788.95	1.86
Brenntag (DE000A1DAH0)	株	579,585	159,585		EUR	69.0800	40,037,731.80	1.13
Brockhaus Technologies AG (DE000A2GSU42)	株	625,000			EUR	22.4000	14,000,000.00	0.39
Carl Zeiss Meditec (DE0005313704)	株	238,908	207,908		EUR	126.0500	30,114,353.40	0.85
Commerzbank (DE000CBK1001)	株	7,261,573	6,391,573		EUR	9.7140	70,538,920.12	1.99
Continental (DE0005439004)	株	725,365	197,365	35,000	EUR	69.5200	50,427,374.80	1.42
Deutsche Bank Reg. (DE0005140008)	株	3,229,589		3,910,411	EUR	9.2820	29,977,045.10	0.85
Deutsche Börse Reg. (DE0005810055)	株	402,000	260,000	109,000	EUR	179.8000	72,279,600.00	2.04
Deutsche Pfandbriefbank (DE0008019001)	株	1,743,160			EUR	8.0300	13,997,574.80	0.39
Deutsche Post Reg. (DE0005552004)	株	3,831,000	3,871,000	40,000	EUR	42.9000	164,349,900.00	4.64
Deutsche Telekom Reg. (DE0005557508)	株	8,305,607	5,315,607		EUR	22.3500	185,630,316.45	5.24
Dr. Ing. h.c. F. Porsche (DE000PAG9113)	株	82,000	47,000		EUR	116.9000	9,585,800.00	0.27
E.ON Reg. (DE000ENAG999)	株	6,900,847	4,475,847		EUR	11.5100	79,428,748.97	2.24
Fraport AG Frankfurt Airport Services Worldwide (DE0005773303)	株	562,000			EUR	46.2000	25,964,400.00	0.73
Fresenius (DE0005785604)	株	1,978,000		354,000	EUR	24.9000	49,252,200.00	1.39
Gerritshoer (DE000A0LD6E6)	株	98,274			EUR	91.6000	9,001,898.40	0.25
Hannover Rück Reg. (DE0008402215)	株	181,000		57,803	EUR	181.2000	32,797,200.00	0.93
Henkel Pref. (DE0006048432)	株	288,116		209,884	EUR	72.4400	20,871,123.04	0.59
Hugo Boss Reg. (DE000A1PHFF7)	株	85,000	85,000		EUR	65.9400	5,604,900.00	0.16
Infineon Technologies Reg. (DE0006231004)	株	4,800,591		1,039,409	EUR	37.3550	179,326,076.81	5.06
JENOPTIK (DE000A2NB601)	株	382,001	8,000		EUR	31.4400	12,010,111.44	0.34
Jungheinrich Pref. (DE0006219934)	株	220,000	15,470		EUR	32.2800	7,101,600.00	0.20
K+S Reg. (DE000KSAG888)	株	2,527,103	1,174,103	337,000	EUR	19.7000	49,783,929.10	1.40
Kion Group (DE000KGX8881)	株	652,531			EUR	35.4200	23,112,648.02	0.65
Knorr-Bremse (DE000KBX1006)	株	532,529	453,529		EUR	61.2000	32,590,774.80	0.92
Krones (DE0006335003)	株	41,387		22,613	EUR	109.1000	4,515,321.70	0.13
Lanxess (DE0005470405)	株	2,214,055		520,945	EUR	37.6600	83,381,311.30	2.35
Mercedes-Benz Group (DE0007100000)	株	2,528,000		137,000	EUR	70.5300	178,299,840.00	5.03
Merck (DE0006599905)	株	497,173	129,173	82,000	EUR	171.2500	85,140,876.25	2.40
Münchener Rückversicherungs- Gesellschaft Vink. Reg. (DE0008430026)	株	415,000		98,172	EUR	323.1000	134,086,500.00	3.78
PUMA (DE0006969603)	株	568,329	378,329		EUR	56.3600	32,031,022.44	0.90
Qiagen (NL0012169213)	株	938,694	693,694		EUR	41.6400	39,087,218.16	1.10
SAP (DE0007164600)	株	2,619,304	210,304		EUR	115.9200	303,629,719.68	8.57
Sartorius Pref. (DE0007165631)	株	71,700		3,000	EUR	385.3000	27,626,010.00	0.78
SFC Energy (DE0007568578)	株	195,404			EUR	22.0000	4,298,888.00	0.12
Siemens Energy (DE000ENER6Y0)	株	1,845,324	1,022,324	404,000	EUR	20.0700	37,035,652.68	1.04
Siemens Reg. (DE0007236101)	株	2,348,879	47,879	32,000	EUR	148.6400	349,137,374.56	9.85
Siltronic Reg. (DE000WAF3001)	株	283,408		69,092	EUR	66.7000	18,903,313.60	0.53
Sixt (DE0007231326)	株	111,000	111,000		EUR	122.1000	13,553,100.00	0.38
Ströer (DE0007493991)	株	518,625		57,538	EUR	48.4000	25,101,450.00	0.71
Suse (LU2333210958)	株	858,691			EUR	16.8600	14,477,530.26	0.41

有価証券銘柄	単位 又は 通貨 (千)	残高	当期		時価	時価合計 (EUR)	対純資産 比率 (%)
			購入/増加	売却/減少			
Symrise (DE000SYM9999)	株	282,000			EUR 99.5200	28,064,640.00	0.79
Talanx Reg. (DE000TLX1005)	株	160,000			EUR 43.0200	6,883,200.00	0.19
United Internet Reg. (DE0005089031)	株	974,000		142,406	EUR 15.9750	15,559,650.00	0.44
Vitesco Techs Grp Na O.N. (DE000VTSC017)	株	64,221	37,998	29,390	EUR 67.6000	4,341,339.60	0.12
Vonovia (DE000A1ML7J1)	株	1,620,000	375,000		EUR 17.1550	27,791,100.00	0.78
Wacker Chemie (DE000WCH8881)	株	31,500	9,000	34,500	EUR 149.7500	4,717,125.00	0.13
Zalando (DE000ZAL1111)	株	656,000	440,000	158,710	EUR 38.0300	24,947,680.00	0.70
投資ファンド証券						77,133,799.99	2.18
グループ内ファンド証券(管理会社が発行したファンド証券を含む)						(11,573百万円)	
						77,133,799.99	2.18
						(11,573百万円)	
Deutsche Managed Euro Fund Z-Class (IE00BZ3DF20) (0.100%)	□	7,887	21,341	15,017	EUR 9,779.8656	77,133,799.99	2.18
有価証券合計						3,534,664,881.13	99.72
						(530,341百万円)	
銀行預金及び非証券マネーマーケット 商品						13,874,804.36	0.39
						(2,082百万円)	
銀行預金						13,874,804.36	0.39
要求払預金(保管銀行)							
ユーロ建預金	EUR	13,618,143.94			% 100	13,618,143.94	0.38
その他のEU/EEA通貨建預金	EUR	5,111.00			% 100	5,111.00	0.00
非EU/EEA通貨建預金							
スイス・フラン	CHF	5,320.78			% 100	5,333.31	0.00
英ポンド	GBP	646.96			% 100	734.68	0.00
米ドル	USD	267,329.28			% 100	245,481.43	0.01
その他の資産						143,358.83	0.00
未収利息	EUR	21,990.85			% 100	21,990.85	0.00
配当金/未収分配金	EUR	87,760.80			% 100	87,760.80	0.00
未収源泉徴収税還付金	EUR	33,607.18			% 100	33,607.18	0.00
その他の負債						-4,109,263.80	-0.11
費用項目に係る負債	EUR	-4,109,263.80			% 100	-4,109,263.80	-0.11
純資産						3,544,573,780.52	100.00
						(531,828百万円)	

1口当たり純資産額及び発行済口数	単位又は通貨	各通貨における 1口当たり純資産額
1口当たり純資産額		
クラスLD	EUR	188.39 (28,266円)
クラスGLC	EUR	199.97 (30,003円)
クラスTFC	EUR	122.39 (18,363円)
発行済口数		
クラスLD	□	18,344,420.731
クラスGLC	□	129,933.000
クラスTFC	□	511,947.000

比率の計算に際して四捨五入により僅少な差異が生じることがある。

為替レート(間接レート)

2023年3月31日現在

スイス・フラン	CHF	0.997650 =	EUR	1
英ポンド	GBP	0.880600 =	EUR	1
米ドル	USD	1.089000 =	EUR	1

期中に行われた取引で、純資産明細表に記載されていないものは以下の通りである。

有価証券、ファンド証券及び約束手形貸付(Schuldscheindarlehen)の
売買(期末日現在の取引市場区分による。)

有価証券銘柄	単位 又は 通貨(千)	購入 又は 増加	売却 又は 減少
--------	-------------------	----------------	----------------

取引所売買有価証券

株式			
Aixtron Reg. (DE000A0WMPJ6)	株		140,000
Amadeus Fire (DE0005093108)	株		4,079
Aperam (LU0569974404)	株		262,500
CompuGroup Medical SE & Co.KGaA (DE000A288904)	株		314,000
Covestro (DE0006062144)	株		429,000
Evonik Industries Reg. (DE000EVNK013)	株		601,983
Evotec (DE0005664809)	株		105,000
Fresenius Medical Care (DE0005785802)	株		268,000
HelloFresh (DE000A161408)	株	75,000	533,000
Instone Real Estate Group (DE000A2NBX80)	株		547,258
Linde (IE00BZ12WP82)	株		990,000
Nordex (DE000A0D6554)	株		1,243,163
Porsche Automobil Holding Pref. (DE000PAH0038)	株		486,000
SMA Solar Technology (DE000A0DJ6J9)	株		87,000
Valéo (FR0013176526)	株		19,900
Volkswagen Pref. (DE0007664039)	株	18,000	239,000

デリバティブ(オプション取引の開始時に実現したオプション・プレミアム、又はオプション取引高合計、ワラントの場合には購入・売却数量)

先物契約 取引高(単位:千)

有価証券先物契約

株式先物契約

買建契約: EUR 59,981
(基礎商品: Deutsche Post Reg.)

株価指数先物契約

買建契約: EUR 407,609
(基礎商品: DAX 40(パフォーマンス指数))

K A R B V (K A G B に 基 づ く 会 計 及 び 評 価 規 則) 第 7 条 第 9 項 に 基 づ く 補 足 情 報

その他の情報

クラスLDの1口当たり純資産：188.39ユーロ

クラスGLCの1口当たり純資産：199.97ユーロ

クラスTFCの1口当たり純資産：122.39ユーロ

クラスLDの発行済口数：18,344,420.731口

クラスGLCの発行済口数：129,933.000口

クラスTFCの発行済口数：511,947.000口

資産の評価手続きに関する情報

保管銀行は、資産運用会社の協力のもとで評価を実施しなければならない。保管銀行は通常、外部情報を基礎として評価を実施する。

取引価格が入手できない場合には、保管銀行と資産運用会社との間で合意され、かつ、可能な限り市場パラメータに基づく評価モデルを使用して、価格が決定される(導出された市場価額)。この手続きは、継続的なモニタリング・プロセスの対象となる。第三者の価格情報の妥当性は、その他の価格情報源、モデル計算又はその他の適切な手続きを通じて確認される。

本報告書(訳者注：原文の報告書)に報告されている投資で、導出された市場価額で評価されているものはない。

投資ファンド証券について、有価証券ポートフォリオで保有している投資ファンドに対して報告日現在で適用されている総報酬に対する管理報酬の比率は、投資ポートフォリオ中に括弧で表示されている。プラス記号は、実績報酬も課される可能性があることを意味している。ファンドは当報告期間中に他の投資ファンド(対象ファンド)の受益証券を保有していたため、個々の対象ファンドごとに追加の費用及び手数料が発生した可能性がある。

< 訳者注 >

上記諸表中の略語等の説明

Reg. : 記名株式
Vink. : 譲渡制限付
Pref. : 優先株式

証券金融取引(SFT)及び再使用の透明性に関する規則(EU)2015/2365及び改正規則(EU)648/2012に関する情報 -
セクションAに準拠した報告書

報告期間において、上記規則の対象となる証券金融取引はなかった。

(2) 【投資有価証券明細表等】

ファンドの投資有価証券明細表については、「(1) 資産及び負債の状況」を御参照下さい。

4【管理会社の概況】

（1）【資本金の額】

2023年5月31日現在のDWSの払込資本金は1.15億ユーロ（17,255百万円）である。（授権株式数及び発行済株式総数は該当なし。）

（2）【事業の内容及び営業の状況】

DWSは有価証券投資信託の管理運営を業務とする管理会社であり、2022年5月31日現在、ファンドを含めて契約型、オープン・エンド型の293本の投資信託を管理している。

（2023年5月31日現在）

	種類（基本的性格）	ファンド数	純資産額の合計額（百万ユーロ）
1	キャッシュマネジメント	2	1,105.6
2	株式運用型	51	64,928.9
3	年金投資ファンド	66	20,480.1
4	マルチアセット運用	127	20,369.0
5	系統的定量的投資	13	3,032.1
6	パッシブ運用型	32	8,042.5
7	オルタナティブ運用型	2	103.4
	合計	293	118,061.6

（3）【その他】

本書提出前6ヶ月以内に訴訟事件、その他重要事項に該当するものは発生していない。

5【管理会社の経理の概況】

a. 本書記載の管理会社の邦文の中間財務書類（以下「邦文の中間財務書類」という。）は、ドイツにおける諸法令及び一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成された原文の中間財務書類（以下「原文の中間財務書類」という。）の翻訳に、下記の円換算額を併記したものである。管理会社の中間財務書類の日本における開示については、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）第76条第4項ただし書の規定が適用されている。

邦文の中間財務書類には、中間財務諸表等規則に基づき、原文の中間財務書類中のユーロ表示の金額のうち主要なものについて円換算額が併記されている。日本円への換算には、2023年5月31日の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値、1ユーロ=150.04円の為替レートが使用されている。なお、百万円未満の金額は四捨五入されている。

原文の中間財務書類は、外国監査法人等（「公認会計士法」（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定されている外国監査法人等をいう。）から、「金融商品取引法」（昭和23年法律第25号）第193条の2第1項第1号に規定されている監査証明に相当すると認められる証明を受けていない。

b. 本書記載の管理会社の邦文の財務書類（以下「邦文の財務書類」という。）は、ドイツ連邦共和国における諸法令及び一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成された本書記載の原文の財務書類（以下「原文の財務書類」という。）の翻訳に、下記の円換算額を併記したものである。管理会社の財務書類の日本における開示については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第131条第5項ただし書の規定が適用されている。

邦文の財務書類には、財務諸表等規則に基づき、原文の財務書類中のユーロ表示の金額のうち主要なものについて円換算額が併記されている。日本円への換算には、2023年5月31日の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値、1ユーロ=150.04円の為替レートが使用されている。なお、百万円未満の金額は四捨五入されている。

原文の財務書類は、外国監査法人等（「公認会計士法」（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定されている外国監査法人等をいう。）であるマザー・ゲーエムペーハー & Co. KG、ヴィルトシャフツブリューングスゲゼルシャフト、シュトイアベラートゥングゲゼルシャフト（ドイツ連邦共和国における独立監査人）から、「金融商品取引法」（昭和23年法律第25号）第193条の2第1項第1号に規定されている監査証明に相当すると認められる証明を受けている。その監査報告書の原文及び訳文は、本書に掲載されている。

a. 中間財務書類

(1) 【資産及び負債の状況】

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー
2022年6月30日現在の状況
ドイツにおける諸法令に基づく報告

貸借対照表(無監査)

2022年6月30日現在

	千ユーロ	百万円		千ユーロ	百万円
流動資産	769,197	115,410	負債	337,937	50,704
売却可能有価証券	329,254	49,401	引当金	384,781	57,733
固定資産	4,014	602	資本	393,552	59,049
無形資産	1,311	197			
前払費用	12,493	1,874			
純年金資産	0	0			
資産合計	<u>1,116,269</u>	<u>167,485</u>	負債・資本合計	<u>1,116,269</u>	<u>167,485</u>

(2) 【損益の状況】

損益計算書(無監査)

自 2022年1月1日 至 2022年6月30日

	千ユーロ	百万円
会社からの受取配当金	16,236	2,436
利息収益	-952	-143
手数料収益	886,166	132,960
手数料費用	-370,162	-55,539
非利息費用	-211,956	-31,802
その他の費用及び収益	-72,711	-10,910
利益移転	-246,621	-37,003
法人所得税	0	0
純利益	<u>0</u>	<u>0</u>

b. 2022年12月31日終了年度の財務書類

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、
フランクフルト・アム・マイン

貸借対照表 2022年12月31日現在

資産

	2022年 ユーロ	前期 ユーロ
1. 金融機関に対する債権		
a) 要求払	388,920,497.93	438,991,713.59
2. 顧客に対する債権	107,630,711.71	179,875,210.43
3. 債券及びその他の固定利付有価証券		
a) 債券	81,494,670.98	155,409,893.57
aa) 公的発行体 このうち：ドイツ連邦銀行において 担保として適格であるもの 81,494,670.98ユーロ(前期155,410千 ユーロ)		
4. 株式及びその他の変動利付有価証券	398,314,258.52	299,181,913.40
5. 関係会社出資金	3,096,251.29	3,067,751.29
6. 無形資産	923,504.20	1,652,774.36
a) 購入した利権、産業所有権及び類似の 権利/資産、並びにこれらの権利/資産 に係るライセンス		
7. 有形固定資産	775,572.00	1,071,773.00
8. その他の資産	507,375,052.71	526,530,851.70
9. 前払費用	5,152,421.04	4,986,330.07
資産合計	1,493,682,940.38	1,610,768,211.41
	(224,112百万円)	(241,680百万円)

負債及び資本

	2022年		前期
	ユーロ	ユーロ	ユーロ
1. 金融機関に対する債務			
a) 要求払		2,461,456.15	5,106,451.49
2. その他の債務		597,309,403.84	720,636,150.38
3. 引当金			
a) 年金及び類似債務に対する引当金	61,575,244.39		14,243,364.05
b) その他の引当金	378,785,181.00		417,230,590.49
		440,360,425.39	431,473,954.54
4. 劣後債務		60,000,000.00	60,000,000.00
5. 資本			
a) 資本金	115,000,000.00		115,000,000.00
b) 資本剰余金	129,724,784.04		129,724,784.04
c) 利益剰余金			
ca) その他の利益剰余金	148,826,870.96		148,826,870.96
d) 繰越利益剰余金	0.00		0
		393,551,655.00	393,551,655.00
負債及び資本合計		1,493,682,940.38	1,610,768,211.41
		(224,112百万円)	(241,680百万円)

	ユーロ	ユーロ
受益者のために管理されている特別資産		
純資産価額	128,494,521,256.40	150,673,688,984.62
	(19,279,318百万円)	(22,607,080百万円)
特別資産(本数)	238	249
保証契約からの偶発債務		
年金契約に係る拠出保証	14,248,384,048.00	14,013,245,558.00

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、
フランクフルト・アム・マイン

損益計算書

自2022年1月1日 至2022年12月31日

費用

	2022年		前期
	ユーロ	ユーロ	ユーロ
1. 利息費用		2,042,057.26	1,675,177.46
2. 手数料費用		723,029,267.66	726,797,566.57
3. 一般管理費			
a) 人件費			
aa) 賃金及び給料	101,532,201.51		91,151,925.92
ab) 強制社会保険拠出金並びに年金及びその他の従業員給付費用	36,166,889.95		17,737,487.96
このうち：年金制度 27,028,882.26ユーロ (前期8,827千ユーロ)		137,699,091.46	108,889,413.88
b) その他の管理費		342,346,052.43	299,066,463.24
4. 無形資産及び有形固定資産の減価償却及び価値修正		1,071,413.33	1,303,648.13
5. その他の営業費用		78,653,569.70	38,708,925.68
6. 債権及び一部の有価証券の償却及び価値修正		73,935,183.57	42,675,358.37
7. その他の税金(上記5に含まれていないもの)		0.00	99,717.17
8. 利益移転契約に基づき移転された利益		518,974,383.49	678,449,011.84
		(77,867百万円)	(101,794百万円)
9. 当期純利益		0.00	50,000,000.00
費用合計		1,877,751,018.90	1,947,665,282.34
		(281,738百万円)	(292,228百万円)

	2022年		収益
	ユーロ	ユーロ	前期 ユーロ
1. 利息収益			
a) 貸出及び金融市場業務			
aa) 経常利息収益(プラス)	2,352,193.58		542,737.22
ab) 経常利息収益(マイナス)	-1,764,094.13		-2,752,602.31
		588,099.45	-2,209,865.09
b) 固定利付有価証券及び債務登録債権		1,560,864.56	1,560,864.56
2. 以下による経常収益			
a) 関係会社出資金		16,235,535.67	78,578,690.01
3. 手数料収益		1,753,797,063.78	1,850,871,446.24
4. その他の営業収益		105,569,455.44	18,864,146.62
収益合計		1,877,751,018.90	1,947,665,282.34
		(281,738百万円)	(292,228百万円)

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、
フランクフルト・アム・マイン

年次財務諸表注記

2022年度

ドイツ会社法の関連情報

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー(デーヴェーエス・ゲーエムベーハー)は、フランクフルト・アム・マインに本社を置き、フランクフルト・アム・マイン地方裁判所の商業登記簿の部門Bに、登記番号第9135号として登記されている。

作成根拠と方法

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーの年次財務諸表は、ドイツ商法(HGB)及び金融機関及び金融サービス機関の会計に関する規則(RechKredV)に従って作成されたものである。

会計処理及び評価の方法

会計上の通貨はユーロである。

相殺の禁止

商法第246条第2項第1文により、原則として、資産項目と負債項目の相殺、及び費用と収益の相殺はいずれも行われていない。ただし、商法第246条第2項第2文に従って、年金債務及び類似長期債務の決済を目的とする資産のみは、各債務と相殺されている。

債権及びその他の資産

債権及びその他の資産は額面金額で計上されている。

債券及びその他の固定利付有価証券

債券及びその他の固定利付有価証券は、厳格な低価法を用いて、取得原価で計上されている。

株式及びその他の変動利付有価証券

「株式及びその他の変動利付有価証券」の保有分は全て、流動資産に適用される厳格な低価法を用いて、取得原価または公正価値(取得原価より低い場合)で計上されている。

関係会社出資金

関係会社出資金は、固定資産として認識され、緩和された低価法に基づいて計上されている。

無形資産及び有形固定資産

無形資産及び有形固定資産は、取得原価または製造原価から予想耐用年数に応じた定額法による通常の減価償却及び償却の累計額を控除した額で計上されている。永続的な価値の下落が予想される場合には、臨時償却が行われる。2008年度より、法令の規定に適合する、固定資産に属する個別使用が可能な資産はプール資産(Sammelposten)として計上されている。

債務

債務は返済金額で評価されている。

引当金

年金及び類似債務に対する引当金は、保険数理原則に基づいて、予測単位積増方式を使用して計算されている。

使用した利率(過去10年度の平均市場金利)は1.78%、昇給率は2.64%であり、現在の年金の調整は3.02%で行われると仮定している。使用した死亡率表はドクトル・クラウス・ホイバックの2018年版の保険数理表を出典としている。

その他の長期引当金は、通常、商法第253条第2項第1文に従って、要返済額で設定されている。

当社が締結した金利スワップに関する偶発損失に対する引当金は、マイナスの市場価格について認識されている。

収益及び費用については、発生主義で会計処理している。

貸借対照表注記

金融機関に対する債権

金融機関に対する債権は、要求払いのものである。

顧客に対する債権

顧客に対する債権は、要求払いのものであり、主として、金融ポートフォリオの管理の枠組みでのサービスの提供に関連して発生する。

債券及びその他の固定利付有価証券

当該貸借対照表科目には、2020年に購入したドイツ連邦州の固定利付債券が含まれている。当該債券の金利は2.15%、償還日は2119年3月21日である。額面金額は111,950千ユーロであり、取得原価は83,582千ユーロのプレミアムを含めて195,532千ユーロである。プレミアムは残存期間にわたって定額法で償却されており、当期に係る費用は846千ユーロであった。当該債券は、厳格な低価法に従って、貸借対照表日現在の市場価格である81,495千ユーロまで73,915千ユーロ評価減された。

貸借対照表日現在の未収利息は1,879千ユーロであった。

当該有価証券は上場しており、ドイツ連邦銀行において担保として適格である。当社では当該債券を流動性準備に割り当てている。

株式及びその他の変動利付有価証券

当該有価証券は、マネー・マーケット・ファンドに対する当社の投資に関連している。当該ファンドは、当社自身が前期に発行したものであり、デーヴェーエス・グループのグループ会社により流動性の投資に使用されている。貸借対照表日現在の現行レートによる評価により、帳簿価額は398,264千ユーロ（前期：299,182千ユーロ）となった。厳格な低価法に基づいて当期に認識した評価減は866千ユーロ（前期：867千ユーロ）であった。

加えて、投資株式会社（Investmentaktiengesellschaft）に対する持分50千ユーロ（前期：50千ユーロ）が報告されている。

当社では当該ファンドの受益証券及び投資株式会社に対する持分を流動性準備に割り当てている。

固定資産

固定資産の増減については、年次財務諸表注記の附属明細書を参照。

関係会社出資金

当社は、ルクセンブルグに本拠を置くデーヴェーエス・インベストメント・エス・エーに対する50%持分を継続して保有している。デーヴェーエス・インベストメント・エス・エー（デーヴェーエス・エス・エー）は投資管理会社であり、貸借対照表日現在の資本は389,248千ユーロ（前期：386,459千ユーロ）、2022年度の経営成績は24,137千ユーロ（前期：31,349千ユーロ）であった。その帳簿価額に変動はなく、3,068千ユーロ（前期：3,068千ユーロ）であった。同社は上場していない。

DIP事業の売却を考慮すると、2022年1月31日以降、DIPマネジメント・ゲーエムベーハーに対する保有持分は29千ユーロである。

無形資産

貸借対照表科目の「無形資産」は、グループ会社が取得したファンド管理権924千ユーロ（前期：1,653千ユーロ）を示している。ファンド運用資産の売却後におけるファンド管理権の購入原価の価額の低下と整合させるために、計画的償却684千ユーロに加えて45千ユーロの臨時償却を実施した。

その他の資産

「その他の資産」には、主に、グループ会社に対して供与した2件の貸付金（330,855千ユーロ、前期：329,480千ユーロ）及び2022年12月分の管理報酬（92,994千ユーロ、前期：103,741千ユーロ）が計上されている。

上記貸付金は、以下のように供与されている。

- ・デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAに対する、期限2023年4月15日、マイナス金利0.31%の300,000千ユーロ。
 - ・デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハーに対する、期限2023年6月30日、金利1.24%の30,000千ユーロ。
- 2022年12月31日現在の未収利息は、合計855千ユーロ（前期：-520千ユーロ）であった。

前払費用

前払費用には、販売手数料の前払額のうち、契約期間上翌期以降に係る金額が含まれている。

金融機関に対する債務

金融機関に対する債務は合計2,461千ユーロ（前期：5,106千ユーロ）であり、主に、金融ポートフォリオの管理を目的とするサービスの提供に対する請求に関連している。

その他の債務

「その他の債務」には、主に、2022年度の利益移転による債務518,974千ユーロ（前期：678,449千ユーロ）が含まれている。

年金及び類似債務に対する引当金

2010年度にドイツ会計基準近代化法（BiMoG）の規定する会計方針及び会計規則に関する新たなドイツ商法を初度適用するに当たり、当社はドイツ商法導入法（EGHG B）第67条第1項第1文及び第2文に基づく選択権を行使しなかった。

年金及び類似債務に対する引当金は222,739千ユーロ（前期：204,179千ユーロ）であった。HGB第253条6項1文に準拠した差額は、貸借対照表日現在10,669千ユーロ（前期：13,913千ユーロ）である。

貸借対照表日現在の公正価値で評価した年金資産は161,164千ユーロ（前期：189,935千ユーロ）である。年金資産の取得原価が181,983千ユーロであることから、公正価値での評価により20,819千ユーロの評価減となった。

BiMoGの規定に基づいて年金資産（161,164千ユーロ）と年金引当金（222,739千ユーロ）を相殺した結果、61,575千ユーロ（前期：14,243千ユーロ）の債務純額となっている。

その他の引当金

その他の引当金は主に、年金契約及び価額保証商品に係る最低支払コミットメント104,399千ユーロ（前期：139,526千ユーロ）、グループ内企業が提供したサービス85,284千ユーロ（前期：80,779千ユーロ）、販売手数料58,090千ユーロ（前期：62,357千ユーロ）、並びに従業員特別報酬39,888千ユーロ（前期：42,438千ユーロ）に対して設定されている。

年金商品からの最低支払コミットメントに関連して、当社は前期に、更なる金利低下のリスクをヘッジする目的で、額面金額120,000千ユーロ、期間30年の金利スワップを締結した。当該金利スワップは、当期において、別の金利スワップに置き換えられた。当該金利スワップの貸借対照表日現在の外部の時価評価に基づいて、21,163千ユーロ（前期：17,669千ユーロ）の引当金が設定された。

さらに、当該貸借対照表科目には、早期退職債務に対する引当金7,362千ユーロ（前期：5,226千ユーロ）及び勤続報奨債務に対する引当金3,827千ユーロ（前期：3,882千ユーロ）が含まれている。

劣後債務

当社は、資本基盤の強化を目的として、グループの親会社から60,000千ユーロ（前期：60,000千ユーロ）の劣後ローンの供与を受けた。当該ローンは無担保劣後債務であり、相互に同順位であるとともに、他の全ての劣後債務とも同順位にある。

当該ローンは、変動金利で、解約オプション（初回は2024年12月18日）が付されており、期限は2029年12月18日、現在の利息期間の金利は5.378%である。各利息期間の利息は、各3月18日、6月18日、9月18日及び12月18日に後払いされる。当期には利息費用2,027千ユーロ（前期：1,667千ユーロ）が含まれている。現在の利息期間に係る未払利息部分は108千ユーロであり、支払日は2023年3月18日である。

資本

貸借対照表日現在、デーヴェーエス・ゲーエムベーハーの資本は393,552千ユーロであった。

その内訳は以下の通りである。

	2022年	2021年	変動
	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ
資本金	115,000	115,000	0
資本剰余金	129,725	129,725	0
利益剰余金			
その他の利益剰余金	140,173	140,173	0
法的に配当が制限されるその他の利益剰余金	8,654	8,654	0
	148,827	148,827	0
貸借対照表上の資本計上額	393,552	393,552	0

劣後ローン	60,000	60,000	0
自己資本(控除項目の控除前)	453,552	453,552	0

グループ親会社から供与された60,000千ユーロの長期ローンを考慮すると、貸借対照表日現在の自己資本(控除項目の控除前)は453,552千ユーロである。

外貨建項目

貸借対照表日現在、544千ユーロ(前期:672千ユーロ)相当の外貨建資産を保有している。外貨建負債の額は983千ユーロ(前期:983千ユーロ)であった。

関係会社に関する情報

貸借対照表日現在の関係会社に対する債権及び債務は次の通りである。

	2022年	2021年
	千ユーロ	千ユーロ
金融機関に対する債権	131,967	131,039
顧客に対する債権	105,861	178,114
その他の資産	377,107	379,358
金融機関に対する債務	552	4,814
その他の債務	568,403	705,918
劣後債務	60,000	60,000

出資者に対する債権及び債務

貸借対照表日現在、本項目には出資者に対する債務531,450千ユーロ(前期:681,788千ユーロ)及び債権30,264千ユーロ(前期:30,346千ユーロ)が含まれている。

先物取引

貸借対照表日現在、上記の金利スワップ以外に、資産及び負債のヘッジを目的とした未決済の先物取引はなかった。

損益計算書注記

貸出及び金融市場業務に係る収益

貸出及び金融市場業務に係る利息収益は、当座預金残高に対するプラスの利息収益180千ユーロ(前期:0千ユーロ)とマイナス金利から生じたマイナスの利息収益1,516千ユーロ(前期:2,213千ユーロ)の両方が含まれている。

固定利付有価証券に係る利息収益

固定利付有価証券に係る利息収益には、2021年に取得した固定利付有価証券に係る利息の全額が含まれている。

関係会社出資金に係る当期収益

報告された16,236千ユーロ(前期:78,579千ユーロ)の収益は、2021年度に関するデーヴェーエス・エス・エー、ルクセンブルグの利益分配額から構成されている。

手数料収益

手数料収益には、主に、自社のファンドの管理に係る収益1,128,947千ユーロ(前期:1,158,304千ユーロ)、及び国内外の投資管理会社向けの金融ポートフォリオ運用に係る収益369,123千ユーロ(前期:426,061千ユーロ)が含まれている。手数料収益にはさらに、その他の販売活動からの収益166,937千ユーロ(前期:170,731千ユーロ)、並びにファンド受益証券の販売及び保管に係る収益14,323千ユーロ(前期:17,239千ユーロ)が含まれている。

その他の営業収益

その他の営業収益は、主に、DIP事業のモルゲンファンド・ゲーエムベーハー(MorgenFund GmbH)に対する売却益68,398千ユーロ、及び年金商品に関する資本維持コミットメントの使用に関連したリスクに対する引当金の戻入益32,952千ユーロ(前期:14,082千ユーロ)から構成されている。

支払利息

この項目には、主に、劣後ローンに係る利息費用2,027千ユーロ(前期:1,667千ユーロ)が含まれている。

手数料費用

手数料費用は、主に、ファンド受益証券の販売に係る費用581,878千ユーロ(前期:581,282千ユーロ)及びファンド管理サービスの獲得に係る費用136,408千ユーロ(前期:135,974千ユーロ)である。

その他の管理費

その他の管理費には、主に、グループ内サービス費239,908千ユーロ(前期:203,896千ユーロ)、電子データ処理サービス費28,944千ユーロ(前期:28,913千ユーロ)、外部サービス調達費23,350千ユーロ(前期:27,711千ユーロ)、及び広告費20,329千ユーロ(前期:18,849千ユーロ)が含まれている。

その他の営業費用

その他の営業費用には、主に、早期解約した金利スワップからの実現損失と、新たに契約した金利スワップの貸借対照表日現在の評価に対する引当金の積増しによる費用の合計46,643千ユーロ、並びに年金債務及び類似する長期債務に係る利息費用と関連する年金資産の公正価値評価から生じた収益の相殺後残高30,581千ユーロ(前期:14,701千ユーロ)が含まれている。

	2022年	2021年
	千ユーロ	千ユーロ
以下の従業員関連債務に係る利息費用		
年金債務	28,456	14,645
部分的退職債務	0	1
早期退職債務	2,097	16
勤続報奨債務	28	84
利息費用合計	30,581	14,746

利息費用は、年金資産に含まれる資産に係る以下の収益と相殺されている：

年金資産の公正価値評価から生じる損益	0	45
制度資産の売却による損益	0	0
年金資産に係る収益合計	0	45
利息費用と年金資産に係る収益の相殺後の費用	30,581	14,701

債権及び一部の有価証券の償却及び価値修正

償却は、金利リスクに対するヘッジに関連して保有する長期有価証券によるものである。

他の事業年度に係る収益及び費用

当期において、他の事業年度に係る以下の収益及び費用が認識された。

	2022年	2021年	変動
	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ
サービス			
収益	1,123	0	1,123
費用	5,858	0	5,858
合計	-4,735	0	-4,735

税金費用

1997年度に出資者との間に締結され、2010年度に全面的に改定され、2020年度に最終的に改正された利益移転契約により、当期の税金の額はゼロであった。

連結納税グループの最終親会社として、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAは、連結納税グループ会社への収益税費用の移転を行っていない。

利益移転契約に基づく利益移転

当期の純利益は518,974千ユーロ(前期：728,449千ユーロ)であった。前期は、現行の利益移転契約に基づき、かつ、その他の利益剰余金への50,000千ユーロの振替を考慮して、合計678,449千ユーロの利益がデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハーに移転された。当期は、合計518,974千ユーロの利益がデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハーに移転された。

その他の情報

保証契約からの偶発債務

デーヴェーエス・ゲーエムベーハーは、国の助成を受けた年金商品の一部としてリスター年金のファンド貯蓄プランを管理しており、当該商品の満期時に拠出金の額面金額の全額を顧客に返済することを保証している。証券口座は、ダイナミック・ポートフォリオ・ヘッジ(コンスタント・プロポジション・ポートフォリオ・インシュアランス(CPPI))の戦略及び技法を使用して管理されている。これらの戦略及び技法では、ルールに基づく配分メカニズムを使用して、市場の水準に応じて、優良資産と高リスク資産への資産の配分を行っている。これらの2つの要素間で配分を行うメカニズムにより、価格下落リスクが抑制される。顧客からの預り金は、様々な株式及び固定利付有価証券又は当該商品の説明書等に記載されるその他の金融商品に投資される。

保証人としての当社のリスクは、各保証日における預り金の価額が保証額を下回る場合に発生する。予想される不足額は、期中において継続的に算定され、対応する引当金によりカバーされる。業務執行役員は、これらの商品によるリスク・ポジションについて、定期的に報告を受けている。

2022年12月31日現在、保証された年金拠出金は14,248,384千ユーロ(前期:14,013,245千ユーロ)である。予想される不足額104,399千ユーロ(前期:139,526千ユーロ)の全額に対して対応する引当金が設定されている。

業務執行役員及び監査役の報酬

業務執行役員に対する総報酬は5,741千ユーロ(前期:6,173千ユーロ)であり、その内、1,291千ユーロ(前期:1,460千ユーロ)は株式報酬であった。監査役総報酬は703千ユーロ(前期:648千ユーロ)であった。前業務執行役員又は遺族には1,149千ユーロ(前期:1,166千ユーロ)が支払われた。前業務執行役員のために設定されている年金引当金は、16,007千ユーロ(前期:15,557千ユーロ)となっている。

従業員数

当社の年間平均従業員数は、非給与制従業員374人(前期:356人)及び給与制従業員103人(前期:123人)であった。

監査人報酬合計

当期において、当社は監査人を変更した。当期の財務諸表監査に関して、新たな監査人に支払われた報酬は、合計348千ユーロであった。

前期の監査人報酬合計に関する開示は、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの連結財務諸表に記載されている(すなわち、商法第285条第17項に基づく開示は行っていない)。

監査役会構成員

Dr. ステファン・フープス、会長(2022年11月18日から。2022年9月8日から監査役会構成員)
デーヴェーエス・マネジメント・ゲーエムベーハーの経営委員会会長
(デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの無限責任出資者)

Dr. アソカ・ヴァマン、会長(2022年6月9日まで)
デーヴェーエス・マネジメント・ゲーエムベーハーの経営委員会会長
(デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの無限責任出資者)

クリストフ・フォン・ドリュアンデル、副会長
クリアリー・ゴットリーブ・スティーン・アンド・ハミルトンLLPのシニア・カウンセラー

ハンス-テオ・フランケン
ドイチェ・フェルメーゲンスベラートゥングAG(DVAG)、監査役会会長

Dr. アレグザンダー・イルゲン
ドイツ銀行プライベート・バンクのCOO、DCO及びCFO

Dr. ステファン・マルキノウスキー
BASF SE、元取締役

Prof. クリスチャン・シュトレンガー
ザ・ジャーマン・ファンズ、監査役会会長

エリザベート・ヴァイゼンホルン(2022年2月10日から)
ポルティクス・インベストメント・ゲーエムベーハーの出資者兼業務執行役員

ゲルハルト・ヴィースホイ
B. メツラー・ジール・ゾーン & Co. AG(銀行)の執行委員会委員

スザンヌ・ザイドラー
ドイチェ・ベタイリグングズAG、元経営委員会委員

業務執行役員会構成員

マンフレッド・パウアー
デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員会会長
デーヴェーエス・マネジメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員
(デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの無限責任出資者)
デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員
デーヴェーエス・オルタナティブス・ゲーエムベーハー、フランクフルト、監査役
デーヴェーエス・インベストメント・エス・エー、ルクセンブルグ、監査役

ディルク・ゲルゲン
デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員(2022年12月31日まで)
デーヴェーエス・マネジメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員
(デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの無限責任出資者)
デーヴェーエス USA、米国、最高経営責任者(2023年1月1日から)
デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員(2022年12月31日まで)
デーヴェーエス・グランドベスト・ゲーエムベーハー、フランクフルト、監査役(2022年12月31日まで)
デーヴェーエス・オルタナティブス・ゲーエムベーハー、フランクフルト、監査役(2022年12月31日まで)

ステファン・クロイツカンブ
デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員(2022年12月31日まで)
デーヴェーエス・マネジメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員(2022年12月31日まで)
(デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの無限責任出資者)
デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員(2022年12月31日まで)
デーヴェーエス・インベストメント・エス・エー、ルクセンブルグ、監査役(2022年12月31日まで)

Dr. マティアス・リーマン
デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員
デーヴェーエス・インターナショナル・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員会会長
デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員
デーヴェーエス・インベストメント・エス・エー、ルクセンブルグ、監査役

ペトラ・プフラウム
デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員
デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員

ヴィンチェンツォ・ヴェッタ
デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト、業務執行役員(2023年2月17日から)
モルゲンファンド・ゲーエムベーハー、フランクフルト、監査役(2022年12月1日から)
デーヴェーエス CH AG、チューリッヒ、取締役
db プリヴァートマンダート・コンフォルト SICAV、ルクセンブルグ、取締役
db PBC SICAV、ルクセンブルグ、取締役
DB PWM SICAV、ルクセンブルグ、取締役
DB フェルメーゲンスフォンマンダート SICAV、ルクセンブルグ、取締役

企業グループへの所属

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーの唯一の出資者(社員)はデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインで、同社は、ドイツ銀行AG、フランクフルト・アム・マインの間接子会社である。

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーはドイツ銀行AGの被連結企業であるため、商法第340i条、並びにドイツ商法導入法(EGHG B)第57条第1項第2号及び国際会計基準の適用に関する2002年7月19日付の欧州議会・理事会規則(EG)第1606/2002号(欧州官報L243第1文)の第4条に従って、免除の適用を受けて、IFRSにより作成された、ドイツ銀行AGの最大のグループに関するドイツ銀行AGの連結財務諸表に含められている。IFRSにより作成されたドイツ銀行AGの連結財務諸表は、企業登記簿(Unternehmensregister)に開示されている。

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの直接子会社であるデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインを通じて、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaA、フランクフルト・アム・マインにも属していることから、IFRSにより作成されたデーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの連結財務諸表にも含められている。

IFRSにより作成されたデーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの連結財務諸表は、企業登記簿(Unternehmensregister)に開示されている。

利益移転

2022年度の純利益は518,974,383.49ユーロ(前期:728,449千ユーロ)であった。前期は、50,000千ユーロがその他の利益剰余金に振り替えられた。

現行の利益移転契約に基づき、合計518,974,383.49ユーロ(前期:678,449千ユーロ)の利益がデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハーに移転される。

フランクフルト・アム・マイン 2023年3月3日

業務執行役員会

(パウアー) (Dr. リーマン) (プフラウム) (ヴェッダ)

附属明細書
固定資産の増減

取得原価

	残高	増加	減少	残高
	2022年1月1日			2022年12月31日
	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ
関係会社出資金	3,067,751.29	28,500.00	0.00	3,096,251.29
無形資産	17,354,321.61	0.00	0.00	17,354,321.61
事務所什器備品	4,014,854.99	45,942.17	0.00	4,060,797.16
	24,436,927.89	74,442.17	0.00	24,511,370.06

減価償却累計額

	残高	増加	減少	残高
	2022年1月1日			2022年12月31日
	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ
関係会社出資金	0.00	0.00	0.00	0.00
無形資産	15,701,547.25	729,270.16	0.00	16,430,817.41
事務所什器備品	2,943,081.99	342,143.17	0.00	3,285,225.16
	18,644,629.24	1,071,413.33	0.00	19,716,042.57

帳簿価額

	2022年12月31日	2021年12月31日
	ユーロ	ユーロ
関係会社出資金	3,096,251.29	3,067,751.29
無形資産	923,504.20	1,652,774.36
事務所什器備品	775,572.00	1,071,773.00
	4,795,327.49	5,792,298.65

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー
フランクフルト・アム・マイン

状況報告書

2022年度

1. 会社の基礎 - 事業モデル

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは、デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの完全子会社であり、主に個人顧客及びドイツの法人顧客向けに、投資ファンドを管理している。

当社は、デーヴェーエス・グループに属しているため、IFRSに準拠して作成されたデーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaA (以下「デーヴェーエス KGaA」という。)の連結財務諸表に含まれている。当社は引き続きドイツ銀行グループに属しているため、IFRSに準拠して作成されたドイツ銀行AGの連結財務諸表に含まれている。

デーヴェーエス・グループにおいて、デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは、引き続きファンド業務及び法人顧客向け商品に注力して行く。

当社及びデーヴェーエス・グループ内の他の企業の商品範囲は、世界中の個人投資家及び法人の資産の保護と成長を助け、あらゆる主要資産クラスを網羅する幅広い投資商品を提供している。

ファンドの管理に加えて、デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは各種の貯蓄・引出スキーム及び年金商品並びにこれらの保管サービスも提供している。さらに当社は、金融ポートフォリオ管理業務の一環としてのサービスを国内外の顧客に提供している。金融ポートフォリオ管理業務の大部分は、デーヴェーエス・グループ内の他の企業を通じて実行されている。

当社の唯一の出資者であるデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインとの間には利益移転契約が存在する。

2. 経済報告

2.1 全般的な経済状況及びセクター特有の状況

2022年において、世界経済は、パンデミックからの回復を継続したものの、新たな深刻な課題に直面した。これには、まず第一に、経済的及び地政学的な不確実性を大幅に増大させた、ロシアのウクライナ侵攻が含まれる。食料品やエネルギーの価格が急騰し、多くの先進国のインフレ率を押し上げた。関連するコストの上昇が、成長率予想の低下につながった。一方、パンデミックの影響も長引いており、中国のゼロコロナ政策が、世界の経済成長の更なる障害となっている。

特に、欧州のロシア産エネルギーへの依存度の高さが注目を集めた。多くの市場関係者は、欧州の深刻な景気後退を懸念した。しかし、欧州連合加盟国は、大方の予想よりずっと早く、ロシアとのつながり及びそのエネルギー供給を断つことができた。政府の大規模な支援策により、高インフレにも関わらず、個人消費は堅調を維持した。

基礎的なインフレ圧力が高まっていき、2022年12月のユーロ圏のインフレ率は前年比5.2%となった。食料品価格とエネルギー価格の上昇が特に目立った。欧州中央銀行(ECB)は、極めて緩和的な金融政策を2022年に終了した。その最初のステップは、インフレ上昇を受けての資産購入の停止であった。次に、最初の利上げが2022年7月に実施された。ECBは、年末までに、主要政策金利を合計250ベースポイント引き上げた。2022年12月の預金金利は2.0%であった。

米国では、2022年上半年期において、経済成長が縮小した。高い在庫水準の解消、輸入の増加、住宅建設投資の減少といった特殊要因が、過去数年支給された手厚いコロナ補助金による恩恵を受けて非常に堅調だった民間需要を上回った。需要の強さは、インフレ圧力を一層悪化させた。極めて堅調な労働市場が、民間需要が底堅く推移するための重要な役割を果たした可能性が高い。労働需要は供給を大幅に上回り、賃金の上昇はここ数十年で最高の水準を維持している。2022年第1四半期以降、米連邦準備理事会(FRB)は、政策金利の積極的な引き上げ(年間を通じて合計4.25%)により、このインフレ圧力に対処した。

日本経済は、2022年において、個人消費の回復を主因として、緩やかな上昇基調で推移した。物価の上昇が加速し始めたことから、日本銀行は、年末に、長期イールドカーブの固定を目的としてその政策を緩和した。

アジアの新興市場(中国を除く)の成長は、2022年において、パンデミック後の経済正常化を主因として、大幅に回復した。エネルギー価格や食料品価格への圧力により、当該地域のほぼ全域でインフレ率が上昇した。コア・インフレ率は、賃金や財政拡大からの大幅な需要圧力がない中、緩やかに推移した。結果として、各国中央銀行が、大幅な金融引き締めに追い込まれることもなかった。

ほとんどのアジア諸国は、2022年において、中国の景気減速によるマイナスの影響を受けた。この景気減速には、例えば、政治的要因による不動産セクターの特定の分野における大幅な下方修正、成長の大きな圧力となった同国のコロナ政策、10月

の中国共産党全国大会を受けての同国の将来の政治的軌道に関する不確実性など、様々な要因が考えられる。2022年12月、中国の景況感及び経済見通しは、同国のコロナ政策が驚くほど明確かつ迅速に転換され、これまで課されてきた厳格な制限措置が全て撤廃されたことを受けて改善した。しかし、中国のコロナ政策の緩和後の大きな不確実性や、健康リスクに対応した自主的なソーシャル・ディスタンスングにより、サービス・セクターは12月も引き続き実質的な圧力を受け続けた。

活発な株式市場が資金の流入と運用資産の急増をもたらし、パンデミック後の投資家の信頼が回復し始めた2021年とは対照的に、2022年は、投資環境を支配した経済的及び地政学的な逆風により、投資家による資金の引き上げや、運用資産の減少が生じた。市場の不確実性が、北米、中米、南米、及びEMEA(ヨーロッパ、中東、アフリカ)地域の投資家による、ファンド市場からの資金の引き上げを招き、アクティブ・エクイティ戦略とフィクストインカム戦略の双方が大幅な流出を記録した。他方、ESG、パッシブ、及び多くのプライベート・マーケット戦略は、市場が低迷し、景気の先行きに暗さが増す中でも、年間で資金流入となった。

ドイツ投資信託協会(BVI)の統計によると、2022年12月におけるドイツの投資ファンド及び資産運用市場は、公募ファンドの運用資産が1兆1,493億ユーロ(前期:1兆3,461億ユーロ)と減少した。特別ファンドのセクターも減少を示しており、運用資産は1兆7,872億ユーロ(前期:2兆520億ユーロ)であった。

2.2 事業の展開

2022年12月31日現在、当社は89本(前期:90本)の個人向けファンド及び149本(前期:159本)の法人向けファンドを管理していた。また、低調な市場環境により、運用ファンド残高は、2021年12月31日現在の1,507億ユーロから2022年12月31日現在の1,285億ユーロへと減少した。

BVIによると、デーヴェーエス・グループは、ドイツの個人向け市場において26.6%(前期:26.1%)のシェアを有し、同市場における主導的地位を維持し、法人向けセクターにおいても引き続き主要な提供者に属している。

当社は2022年11月30日付でDIP事業をモルゲンファンド・ゲーエムベーハーに売却した。高齢者向け(OAP)事業に関する投資勘定の管理と関連して取扱われる有価証券勘定のうち、売却されなかった勘定数は2022年12月末現在0.6百万(前期:0.7百万)で、総額63億ユーロ(前期:85億ユーロ)であった。

当社の2022年度の平均従業員数は477人(前期:479人)であった。

当社の資産運用戦略は引き続き、商品構成の調整と、商品の運用実績の持続的な向上を重点分野に据えている。

2.3 経営成績

当社の財務収益の大部分は、投資ファンド及びポートフォリオの管理に係る取引高に応じた手数料収益からなる。そのため、当社の収益状況は、資本市場の展開、ポートフォリオ管理における投資運用実績及び販売実績に大きく左右される。

手数料収益は1,753.8百万ユーロ(前期:1,850.9百万ユーロ)であり、主に自社のファンドの管理による収益、個別の資産運用による収益並びにファンド・ユニットの販売及び保管による収益から構成されている。前期からの減少は主に、自社のファンドの管理報酬の減少によるものである。手数料収益の詳細については、注記の説明を参照されたい。

手数料費用は、その大部分が、現行の販売及びコンサルタント・パートナーシップに係る費用から構成されている。2022年度の当該費用は723.0百万ユーロと、管理報酬の傾向に沿って、前期の水準(前期:726.8百万ユーロ)を下回った。

手数料費用の詳細については、注記の説明を参照されたい。

当社の最も重要な業績指標の一つである手数料純収益は1,030.8百万ユーロ(前期:1,124.1百万ユーロ)である。前期からの減少は主に、個別の資産運用の一部として受領する実績報酬が、2022年度には実績基準が満たされなかったため、実現されなかったことに起因する。これは、前期の予測において既に予想されていた(前期における2022年度の予想:手数料純収益は2021年度比で横ばい又は減少傾向)。また、2021年度の手数料純収益を達成できるかどうかは、再び同じ金額の実績報酬を生み出すことができるかにも大きく依存する旨も言及されていた。

一般管理費は480.0百万ユーロであり、前期(407.9百万ユーロ)の水準を大幅に上回った。これらの一般管理費は、合計で137.7百万ユーロ(前期:108.9百万ユーロ)の人件費及び342.3百万ユーロ(前期:299.1百万ユーロ)のその他の管理費から成る。人件費の増加は主に、賞与引当金の増加によるものである。その他の管理費の大幅な増加は主に、グループ配賦費用の増加によるものである。

HGBの定義による当社の費用/手数料純収益比率は、2022年度においては46.7%であり、前期の水準(36.4%)を大幅に上回っている。この上昇は主に、グループ配賦費用の増加によるものである。

投資利益は、子会社であるデーヴェーエス・インベストメント・エス・エー、ルクセンブルグの分配から成り、前期から62.3百万ユーロ減少して16.2百万ユーロとなった。

2022年度の収益は、手数料純収益の減少と一般管理費の増加の影響を受けた。DIP事業のモルゲンファンド・ゲーエムベーハーに対する売却により、一度限りのプラスの影響68.4百万ユーロが生じた。2022年度の年間の利益は、519.0百万ユーロ(前期728.4百万ユーロ)であった。前期とは異なり、利益剰余金に充当された利益はなかった(前期:50.0百万ユーロ)。当期の利益は、現行の利益移転契約に基づき、デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインに移転される。

2.4 財政状態

当社の財政状態は正常であり、十分な資本と良好な流動性状況を主な特徴としている。当社の支払能力は常に保証されていた。

当社の主要資産は、金融機関及び顧客に対する短期債権、債券、マネー・マーケット・ファンド並びにその他の資産(主に、グループ会社に対して供与した貸付金、貸借対照表日現在未収の当期12月分の管理報酬)から構成されており、合計1,483.7百万ユーロ(前期:1,600.0百万ユーロ)であった。これらの主要資産は、全資産の99.3%(前期:99.3%)を占めていた。

597.3百万ユーロのその他の負債(前期:720.6百万ユーロ)は、デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムペーハー、フランクフルト・アム・マインに対する利益の移転を含む短中期のグループ内負債が大部分を占めている。その他の負債の減少は、主に利益移転によるグループ内負債の減少に起因している。

引当金合計440.4百万ユーロ(前期:431.5百万ユーロ)は、主に、年金引当金を含む従業員関連の引当金及びその他の引当金(販売手数料及び内部の費用配賦を含む。)から構成されている。さらに当社は、年金商品の取扱開始に関連して資本維持コミットメントを負っており、その全額に対して対応する引当金を設定している。資本コミットメントによる潜在的債務の詳細については、注記の説明を参照されたい。引当金は適切に評価されていた。

60.0百万ユーロ(前期:60.0百万ユーロ)の劣後ローンは、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムペーハー & Co. KGaAからの追加資本支援として2019年度に供与されたものであり、期間10年の長期負債である。

当社の資本は、前期同様、合計393.6百万ユーロであった。

貸借対照表総額約1,493.7百万ユーロ(前期:1,610.8百万ユーロ)のうち資本の割合は26.3%(前期:24.4%)である。

当社の支払能力は常に保証されており、また、当社は常に金融債務を履行することができた。純当座資産(短期債権から短期債務を控除したもの)は、貸借対照表日現在で640.8百万ユーロ(前期:626.7百万ユーロ)であった。これもまた、当期中に創出された余剰流動資金と同様に、主に、ドイツ銀行AG及び外部銀行の預金並びに債券及びマネー・マーケット・ファンドに投資されている。

当社の財政及び経済状態は正常であり、上述の市場及び産業環境の背景に照らすと、全般的に満足のできるものであったと評価される。

2.5 財務指標及び非財務指標

当社の最も重要な財務指標(手数料純収益)については、2.3「経営成績」に既に記載している。

主要な非財務指標は、運用ファンド残高(2.2「事業の展開」を参照)に加え、商品の運用実績及び提供するサービスの範囲である。これらの非財務指標の計画及び管理は、デーヴェーエス・グループにおける全社レベルで、デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムペーハーの業務執行役員会の関与の下で実施される。

デーヴェーエス・グループは、2022年度においても、商品のラインアップ及びサービスの水準について、数多くの賞を受賞した。

さらに、目的志向かつ成果主義の人事方針の継続は、当社の全レベルの従業員による起業家思考の実践を確実にしている。これは、個人又はグループの長期の業績目標の達成を条件とする各種の報酬要素によって支えられている。加えて、デーヴェーエス・グループ及びドイツ銀行グループ内の当社の従業員を対象とした対応するトレーニング及び継続教育プログラムもまた、これに関連して言及されなければならない。

3. 予測、機会及びリスクに関する報告

3.1 リスク・レポート

当社の業務は、適切なリスク管理システムを必要とする。そのため当社は、具体的にデーヴェーエス・グループ及びドイツ銀行グループのグループ全体のリスク管理システムに組み込まれている。

リスク・モデルには、関連するあらゆる種類のリスク(特に、オペレーショナル・リスク、市場リスク、カウンターパーティー・リスク及び流動性リスク)及びリスク管理プロセス(リスクの戦略、識別、分析、伝達及び管理から構成されている)が包含されている。

戦略的なリスクの方向性は、グループ全体の経営の一体化を考慮した上で取締役会の責任の下に決定される。当社のリスク・ポジションは、潜在的リスクの体系的な識別によって統制されている。加えて、定期的に作成されるリスク分析及びその伝達に基づいて、適切な措置が導入される。

当社は、コンプライアンス及び内部監査機能をデーヴェーエス KGaAに外部委託した。デーヴェーエス KGaAのコンプライアンス及び内部監査部門は、ドイツ銀行グループが開発したコンプライアンス及び監査の概念に統合されており、リスクに重点を置きプロセスに依存しない独立した方法でその業務を実施している。

当社の存続を脅かし得るリスクは識別されていない。

3.1.1 非財務リスク

非財務リスクには、オペレーショナル・リスク及びレピュテーション・リスクが含まれる。

オペレーショナル・リスクは、当社にとって市場リスク(特に資本維持コミットメントに関連して、3.1.2を参照)に加えて重要なリスクであり、特に資産運用業務から生じる。資産運用から生じるこれらのオペレーショナル・リスクは特に、当社の賠償義務を伴う投資限度枠の積極的な違反(法律上及び契約上の要求に起因する)から生じ得るものであり、限度枠の監視プログラムの一環として体系的にチェックされる。

さらに、オペレーショナル・リスクは内部プロセス、システム及び人が不適切であること又は機能しないことの結果として発生する。オペレーショナル・リスクはまた、外部事象の結果としても発生し得る。

積極的管理に関する識別、評価及び意思決定は常に確保されている必要がある。当社はデーヴェーエス・グループのガイドラインに従っており、それはドイツ銀行グループのガイドラインに基づいている。デーヴェーエス・グループ・レベルでは、損失分布手法(dbLORE)を使用してオペレーショナル・リスクを数値化している。一方、ドイツ銀行グループ・レベルでは、先進的計測手法を使用しており、これは損失分布手法にも対応している。オペレーショナル・リスクの管理フレームワークには、専用の規則、作業指示書及び適切なITシステムが含まれている。オペレーショナル・リスクの評価には多様な定性的概念が適用されている。これにより、管理のための適切な措置が導き出される。

COVID-19の観点では、デーヴェーエスは、事業への潜在的な影響を積極的に管理するとともに、従業員を守るために、あらゆる地域における状況の進展を注意深く監視した。必要に応じて、例えば、新たな変異株が出現した場合や、感染率が特に高い期間においては、当社は、公式な隔離要求を超えた在宅勤務を従業員に命じることができる。当社は、WHOやドイツ保健省の勧告を適用して従業員の健康を維持しながら、リスクベースの手法を維持し、当社の全ての事業分野が引き続き完全に機能することを確保していく意向である。

レピュテーション・リスクには、ステークホルダーから不適切、非倫理的、又は当社の行動規範を遵守していないと認められる関係、活動又は不作為から生じる、当社のブランド及び評判に対する潜在的な損害に関するリスク、並びに当社の収益、資本又は流動性への関連するリスク及び影響が含まれる。

非財務リスク(特にレピュテーション・リスク)を管理するための主な概念及びプロセスには、損失データの収集、学んだ教訓の分析、シナリオ分析、長期的なリスク軽減のモニタリング、並びにリスク及び内部統制の評価が含まれる。

3.1.2 その他のリスク

経済環境の悪化や不確実性の高まりにより、ボラティリティの高止まりや、金融市場の更なる下振れが生じる可能性がある。一方、投資家は、リスク選好度の低下や売り圧力の上昇に晒され、一部の市場セグメントではそれと同時に流動性のボトルネックが発生する恐れがある。これらの影響が、資産価値の下落につながり、結果として、関連市場における手数料収益が減少する可能性がある。

政治的不確実性及び地政学的リスクは依然として高く、特に貿易制限の増加や国益の重視に関連して、より深刻化する恐れがある。COVID-19パンデミックの期間中にサプライチェーンの混乱を経験したことで、企業も政府も、自給自足により重点を置きつつある。安全保障上の懸念や、技術的リーダーシップのための競争から、制裁措置、輸出規制、及び半導体産業や人工知能といった分野への補助金を盛り込んだ政策が支持される。こうした展開は、世界経済がより細分化される(すなわち、個々の貿易ブロックへと分割される)リスクの上昇を意味し、経済の効率性及び成長を低下させ、そのプロセスで高インフレに拍車をかける。加えて、多国間主義からの脱却は、政治的対立、特に台湾を巡る対立(高度な半導体チップの生産や技術革新において台湾が果たす役割を考えると)が激化する可能性が高まることを意味する。

ロシアによるウクライナ侵攻の一層の激化は、不安定性、不確実性、破壊を助長し、世界中に悪影響を及ぼす更なる制裁へとつながる可能性がある。例えば、ロシア軍によるウクライナにおける更なる前進や脅威の増大、或いは近隣のNATO諸国への攻撃が発生すれば、欧州のリスク・プレミアムが上昇し、経済への信頼に圧力がかかるとともに、原油、ガス、穀物といった原材料の価格を押し上げる恐れがある。また、一層大規模な難民危機が起こる可能性があり、不確実性の上昇を引き起こし、西ヨーロッパ諸国における金融、経済、政治の安定性を脅かし得る。欧州のインフラに対するロシアのサイバー攻撃も、引き続き潜在的なリスクである。

政治的不確実性と地政学的リスクのその他の例には、地理的危機のホットスポットにおける事象(北朝鮮からの核攻撃の脅威や、イランにおける政治的緊張)が含まれる。

上記のリスクはすべて、市場ボラティリティの上昇やリスク回避の増加につながりかねない。これらは、マクロ経済リスクや、紛争、制裁、又は不確実性の根源に晒される資産に対し、悪影響を及ぼす可能性がある。これにより、運用成績が悪化し、資金の流出を引き起こす恐れがある。また、当社の業績や、関連諸国との又は関連諸国における当社の事業活動、及び戦略計画にも、マイナスの影響が及び得る。

当社が現在知る限りでは、当社の直接的な資産ポジションの現在の構造は、当社の状況の評価に関して具体的な関連性を有する直接的な特定の価格変動、債務不履行及び流動性リスクを生じさせるものはほとんどない。特に、当社自身の資産の投資は、ドイツ銀行AG及び外部銀行との間の翌日物預金及び定期預金並びに債券及びマネー・マーケット・ファンドの枠組みで行われる。

COVID-19に関しては、相手方リスクに重要な影響はないと予想している。

さらに当社は、当社が発行した投資ファンド証券を取得している。これらの証券は、年金債務の支払に充当する目的で受託会社に移管されている。これは、主に年金基金に対する投資である。対象となる年金基金の公正価値は、規定に従って年金債務と相殺される。当社では、当該資産による年金債務に対する積立状況を定期的に監視している。前期同様、貸借対照表日現在、債務純額が生じており、貸借対照表の「年金及び類似債務に対する引当金」科目に報告されている。現在のところ、年金債務から重要なリスクが生じることはないと予想している。

ただし、年金商品に係る資本維持コミットメントに関連して、これらの商品の金利に対する感応度から起こりうる引当金の繰入又は戻入によっては、当社の収益ポジションに重要な負担又は重要なプラスの影響が潜在的に生じる可能性がある。当年度においては、資本維持コミットメントに関連して、引当金32百万ユーロ(前期:15百万ユーロ)が戻入れされた。

当社は、更なる金利低下による影響を経済的にヘッジする目的で、2020年度に長期の固定利付債券を取得し、これらを引き続き保持している。同じ目的で2020年に締結された金利スワップは当年度に解約され、新たな金利スワップに置き換えられた。

当社の将来の損益に対するリスクは、主に管理資産に関連する予想外のパフォーマンスである。こうした状況は、起こり得る市場価格の下落に加え、当社の顧客による積極的な資金の引出しに起因し得る。

現在の管理資産の状況及び資金の流出入は当社によって継続的に監視され、取締役会に伝達されている。その際、主要なリスクは、全社レベルの定期的なストレス・テスト分析の過程で捕捉及び数値化される。

リスク負担能力テストの過程で、当社はリスクをカバーする資本(ここでは責任自己資本の金額に翌期の予想収益(リスク割引率で割引後)並びに子会社の適格利益剰余金を加算し、KAGB第25条第4項及び第6項に基づく最低所要自己資本を減算した金額)と、リスク所要自己資本(ここでは、信頼水準99%の識別されたリスクに基づく当社の経済資本)を定期的に比較している。リスクをカバーする資本による、所要リスク自己資本のカバレッジは、当年度を通じて確保されていた。さらに当社は、KAGB第25条に従って規制上の所要資本を継続的に監視しており、当社が十分な自己資本を保有し、これらの要求事項を遵守していることを確認している。

資本基盤を更に強化するために、2020年度及び2021年度の利益から50百万ユーロを留保し、利益剰余金に振り替えた。資本基盤は十分であると見なしたことから、2022年度には利益の留保を行っていない。

3.2 予測(機会に関する報告を含む。)

ドイツ銀行リサーチによると、数多くの要因が、ユーロ圏のインフレ率が2023年には再び低下に転じることを示唆している。ドイツにおけるガス価格の抑制や、その他の国で導入されたエネルギー価格への上限が、抑制効果となる可能性が高い。他方、賃金は上昇が予想され、また、多くの企業で、エネルギー・コストの上昇分を消費者に転嫁する動きが続くと見込まれる。そのため、2023年のインフレ率は平均6.0%と予想されており、ECBのインフレ目標を再び大幅に上回ることになるであろう。2023年には更なる利上げが実施される可能性が極めて高い。ECBは、中期的に2%のインフレ目標を再び達成するために、長期にわたり政策金利を現在の高い水準に据え置くことを既に発表している。

米国について、ドイツ銀行リサーチは、緩やかな景気後退の予想を維持しており、2023年前半に実際に起こる可能性が高い。経済活動の落ち込みがわずかであることが、FRBのインフレ抑制に向けた取り組みを支えると予想される。労働市場の展開が、2023年の金融政策における主要要素になる可能性が高い。若干の景気後退が予想されるものの、失業率の大幅な上昇は予想されていない。また、人口動態や移民率の低下といった構造的な要因により、労働力の供給が限られていることから、企業は経験豊富な人材を引き留めようとする可能性が極めて高い。労働市場の見通しが非常に明るい一方、2023年前半に予想される景気後退からの回復が鈍く、2023年の成長率は潜在成長率を下回ると予想されている。

英国は、2022年の力強い成長の後、2023年はより困難な年になる可能性が高い。個人消費は、実質所得の減少や、これまでの利上げの影響により、打撃を受ける恐れがある。しかし、英国中銀は、インフレ予想が強まるリスクを回避するために、2023年後半も政策金利の引き上げを継続すると予想される。

日本経済は、2023年も緩やかな上昇基調を維持すると予想される。日本銀行は、2023年中に、経済の改善及びインフレ予想を受けて、慎重なアプローチを取りつつも、長期金利を固定するための更なる措置を講じる可能性が高い。

アジアの新興市場は、2023年において、平均を上回る成長を報告することが見込まれ、インフレ率は低下する可能性が高い。中国経済は、同国のゼロコロナ政策の撤廃後、より迅速に、パンデミックのサイクルから抜け出すことができた。これは、回復の開始も予想より早いことを意味し、第2四半期以降は回復が加速する可能性がある。経済の再開に伴って、ペントアップ需要が生じる可能性はあるものの、落ち込みからの回復途上にある労働市場や、消費者向けの広範な直接の金融支援がないことが、需要の妨げとなるため、インフレへの影響は限定的となる見込みである。不振の不動産セクターは、広範な政治的支援により安定化する可能性が高いが、2023年の成長には寄与しないであろう。中国の回復が、まず第一に、消費者需要

や、サービス・セクターの回復に依存する一方、アジアの他の新興市場では、中国からの観光客数の減少に主に起因して、波及効果を感じるであろう。また、東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟国は、中国からの巨額の投資だけでなく、ASEANと中国との間の強固な貿易関係からも恩恵を受けるであろう。韓国及び台湾は、弱まる可能性が高い先進国の需要への依存度が高いことから、2023年も引き続き低迷が予想される。インド経済は、強固な顧客基盤や、同国の競争力の強化に向けた改革といった構造的な理由から、見通しが明るい。

市場では、当面の間、引き続き乱高下が予想されるものの、当セクターの長期的な見通しは、依然として明るい。当社は、多くの主要なトレンドが、資産運用セクターに、課題を提示する一方、機会を提供し続けると信じている。

環境・社会・ガバナンス

ESG問題、及び地球温暖化を1.5度までに抑えるための取組みが、資産運用セクターにおいて、ますます重要になってきている。しかし、個人及び機関投資家の間で需要が高いにもかかわらず、標準化された用語の欠如、グリーンウォッシングに関する懸念、規制の増加、及び包括的なデータへのアクセスの欠如から、大きな課題が数多く残っている。気候変動は依然として重要な問題ではあるが、パンデミック後、多様性やインクルージョンが重要性を増し、また、生物多様性の保護も注目を集めている。

デジタル化

人工知能やブロックチェーンといった新たなテクノロジーの導入が、販売、商品選択、及びバックオフィスに大きな変化をもたらしている。更に、デジタル化によって、新たな資産クラスが生み出されており、多くのオルタナティブ資産クラスの「標準化」につながる可能性がある。また、資産運用会社はトークナイゼーションの利用に強い意欲を示している。

カスタマイズされたソリューション

投資家間の需要の高まりと専門知識の増加が、新たなテクノロジーと相まって、資産運用会社は、例えばダイレクト・インデックスといった、これまで機関投資家のみを提供してきたようなカスタマイズされたソリューションを個人投資家にも提供することが可能となっている。オルタナティブ投資に関して言えば、個人投資家にプライベート資本市場を開放(リテール化)する動きが増加していることから、資産運用会社は、特に個人投資家を対象とした商品の開発を進めている。年金商品市場では、確定給付型ソリューションから確定拠出型ソリューションへのシフトにより、年金ソリューションへの持続的な需要がある。

資産の地理的シフト

特にアジアにおける新興市場が、今後の業界の成長の牽引役となると予想され、現地投資家が投資の視野を世界中に広げ、投資ソリューションを探求する中、資産運用会社に新たな機会を提供すると見込まれる。

市場の統合

規模の経済、及び多様な投資機会を提供する能力は、資産運用会社が市場での地位を堅持するために、益々重要になると見込まれる。「ボルトオン型」の買収により、特にオルタナティブ投資、ESG及びテクノロジーの分野で、業界の統合が続く可能性が高い。

利益率の推移

当社は、規制及びコンプライアンスに関連したコストの上昇、市場における競争の激化に加え、投資家が手数料が低く規模の大きいパッシブ商品への選好を続けていることから、手数料及びコストへの圧力が継続すると見込んでいる。

デーヴェーエス・グループ内で、当社は、2023年において、個人顧客及び法人顧客に対して、包括的なサービスを引き続き提供していく意向である。

KAGBに基づく資本管理会社としての商品の範囲は、主に国内の投資資産の管理並びに国内外の顧客向けの金融ポートフォリオの管理から構成される。

現在のマクロ経済見通し、及び資産運用セクターが直面する課題を踏まえ、当社は、競合他社とは一線を画した革新的な商品やサービスに重点を置きつつ、顧客に対して最高のサービスを提供していく所存である。同時に、コストに対する規制あるアプローチを追求しつつ、成長やイノベーションへの投資を行っていく所存である。当社は引き続き、当社の多様な事業モデルが、現在の課題に対して十分な保護を提供すると確信している。

慎重なマクロ経済見通しを立てているものの、当社は、更なる資金の純流入を背景に、2023年末には当社の運用資産が増加すると予想している。

2022年末に見られた市場の低迷による影響が2023年も残ると考えられる。継続的な利益率への圧力もあることから、2023年度の手数料純収益は、2022年度と比較して若干減少する可能性が高い。

市場や基礎となる状況に重大な変化が生じた場合には、異なる評価となり得る。これは特に、「その他のリスク」に記載する政治的及び経済的不確実性並びに地政学的なリスクを指している。

デーヴェーエス・グループ内での変革プログラムに関する費用が2023年にピークに達することから、2023年は、当社にとって移行の年になるであろう。そのため、当社は、2023年度は、2022年度と比較してコストが大幅に増加すると予想しており、加えて、DIPの売却による1度限りの影響もないことから、税引前利益が大幅に減少すると予想している。

現在の法的及び財政的状況から、当社の経営成績及び資産の状況に対する潜在的な脅威の証拠となるものはない。

フランクフルト・アム・メイン

2023年3月3日

業務執行役員会

(バウアー)

(Dr. リーマン)

(プフラウム)

(ヴェッダ)

[次へ](#)

DWS Investment GmbH
Frankfurt am Main
Jahresbilanz zum 31. Dezember 2022

Amtsgericht
Frankfurt am Main
HRB 9135

Aktivseite			Passivseite		
	EUR	Vorjahr EUR		EUR	EUR
					Vorjahr EUR
1. Forderungen an Kreditinstitute			1. Verbindlichkeiten gegenüber Kreditinstituten		
a) täglich fällig	388.920.497,93	438.991.713,59	a) täglich fällig	2.461.456,15	5.106.451,49
2. Forderungen an Kunden	107.630.711,71	179.875.210,43	2. Sonstige Verbindlichkeiten	597.309.403,84	720.636.150,38
3. Schuldverschreibungen und andere festverzinsliche Wertpapiere			3. Rückstellungen		
a) Anleihen und Schuldverschreibungen	81.494.670,98	155.409.893,57	a) Rückstellungen für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen	61.575.244,39	14.243.364,05
aa) von öffentlichen Emittenten			b) andere Rückstellungen	378.785.181,00	417.230.590,49
darunter:				440.360.425,39	431.473.954,54
beleihbar bei der Deutschen			4. Nachrangige Verbindlichkeiten	60.000.000,00	60.000.000,00
Bundesbank EUR 81.494.670,98 (Vj. TEUR 155.410)			5. Eigenkapital		
4. Aktien und andere nicht festverzinsliche Wertpapiere	398.314.258,52	299.181.913,40	a) gezeichnetes Kapital	115.000.000,00	115.000.000,00
5. Anteile an verbundenen Unternehmen	3.096.251,29	3.067.751,29	b) Kapitalrücklage	129.724.784,04	129.724.784,04
6. Immaterielle Anlagewerte			c) Gewinnrücklagen		
a) entgeltlich erworbene Konzessionen, gewerbliche Schutzrechte und ähnliche Rechte und Werte sowie Lizenzen an solchen Rechten und Werten	923.504,20	1.652.774,36	ca) andere Gewinnrücklagen	148.826.870,96	148.826.870,96
7. Sachanlagen	775.572,00	1.071.773,00	d) Bilanzgewinn	0,00	0
8. Sonstige Vermögensgegenstände	507.375.052,71	526.530.851,70		393.551.655,00	393.551.655,00
9. Rechnungsabgrenzungsposten	5.152.421,04	4.986.330,07			
Summe der Aktiva	1.493.682.940,38	1.610.768.211,41	Summe der Passiva	1.493.682.940,38	1.610.768.211,41
			Für Anteilinhaber verwaltete Sondervermögen	EUR	EUR
			Inventarwerte	128.494.521.256,40	150.673.688.984,62
			Sondervermögen (Anzahl)	238	249
			Eventualverbindlichkeiten aus Gewährleistungsverträgen		
			Garantierte Kapitalrückzahlungen auf Altersvorsorgeverträge	14.248.384.048,00	14.013.245.558,00

DWS Investment GmbH
Frankfurt am Main
Gewinn- und Verlustrechnung
für die Zeit vom 1. Januar bis 31. Dezember 2022

Aufwendungen				Erträge			
	EUR	EUR	Vorjahr EUR		EUR	EUR	Vorjahr EUR
1. Zinsaufwendungen		2.042.057,26	1.675.177,46	1. Zinserträge aus			
2. Provisionsaufwendungen		723.029.267,66	726.797.566,57	a) Kredit- und Geldmarktgeschäften			
3. Allgemeine Verwaltungsaufwendungen				aa) laufende positive Zinserträge	2.352.193,58		542.737,22
a) Personalaufwand				bb) laufende negative Zinserträge	-1.764.094,13		-2.752.602,31
aa) Löhne und Gehälter	101.532.201,51		91.151.925,92	b) festverzinstlichen Wertpapieren und Schuldbuchforderungen		588.099,45	-2.209.865,09
ab) Soziale Abgaben und Aufwendungen für Altersversorgung und Unterstützung darunter: für Altersvorsorge EUR 27.028.882,26 (Vorjahr TEUR 8.827)	36.166.889,95		17.737.487,96			1.560.864,56	1.560.864,56
b) andere Verwaltungsaufwendungen		342.346.052,43	299.066.463,24	2. Laufende Erträge aus			
4. Abschreibungen und Wertberichtigungen auf immaterielle Anlagewerte und Sachanlagen		1.071.413,33	1.303.648,13	a) Anteilen an verbundenen Unternehmen		16.235.535,67	78.578.690,01
5. Sonstige betriebliche Aufwendungen		78.653.569,70	38.708.925,68	3. Provisionserträge		1.753.797.063,78	1.850.871.446,24
6. Abschreibungen und Wertberichtigungen auf Forderungen und bestimmte Wertpapiere		73.935.183,57	42.675.358,37	4. Sonstige betriebliche Erträge		105.569.455,44	18.864.146,62
7. Sonstige Steuern, soweit nicht unter Posten 5 ausgewiesen		0,00	99.717,17				
8. Auf Grund eines Gewinnabführungsvertrags abgeführte Gewinne		518.974.383,49	678.449.011,84				
9. Jahresüberschuss		0,00	50.000.000,00				
Summe der Aufwendungen		1.877.751.018,90	1.947.665.282,34	Summe der Erträge		1.877.751.018,90	1.947.665.282,34

**DWS Investment GmbH
Frankfurt am Main**

**Anhang
für das Geschäftsjahr 2022**

Gesellschaftsrechtliche Angaben

Die DWS Investment GmbH (DWS GmbH) hat ihren Sitz in Frankfurt am Main und ist im Handelsregister beim Amtsgericht Frankfurt am Main in der Abteilung B mit der Nummer 9135 eingetragen.

Grundlagen und Methoden

Der Jahresabschluss der DWS Investment GmbH ist nach den Vorschriften des Handelsgesetzbuches (HGB) und der Verordnung über die Rechnungslegung der Kreditinstitute und Finanzdienstleistungsinstitute (RechKredV) aufgestellt worden.

Bilanzierungs- und Bewertungsmethoden

Die Bilanzwährung ist EURO.

Verrechnungsverbot

Entsprechend § 246 Absatz 2 Satz 1 HGB werden grundsätzlich weder Aktivposten mit Passivposten noch Aufwendungen mit Erträgen verrechnet. Lediglich Vermögensgegenstände, die ausschließlich der Erfüllung von Schulden aus Altersversorgungsverpflichtungen oder vergleichbaren langfristig fälligen Verpflichtungen dienen, werden mit den entsprechenden Schulden im Sinne von § 246 Absatz 2 Satz 2 HGB verrechnet.

Forderungen und Sonstige Vermögensgegenstände

Die Forderungen und Sonstige Vermögensgegenstände sind mit dem Nennwert ausgewiesen.

Schuldverschreibungen und andere festverzinsliche Wertpapiere

Schuldverschreibungen und andere festverzinsliche Wertpapiere werden mit den Anschaffungskosten unter Beachtung des strengen Niederstwertprinzips angesetzt.

Aktien und andere nicht festverzinsliche Wertpapiere

Sämtliche Bestände an Aktien und andere nicht festverzinsliche Wertpapiere sind nach dem für das Umlaufvermögen geltenden strengen Niederstwertprinzip mit ihren Anschaffungskosten bzw. mit den niedrigeren beizulegenden Werten bilanziert.

Anteile an verbundenen Unternehmen

Die Anteile an verbundenen Unternehmen werden dem Anlagevermögen zugeordnet und unter Anwendung des gemilderten Niederstwertprinzips mit den Anschaffungskosten angesetzt.

Immaterielle Anlagewerte und Sachanlagen

Die Bilanzierung der immateriellen Anlagewerte und Sachanlagen erfolgt zu Anschaffungs- bzw. Herstellungskosten, vermindert um planmäßige lineare Abschreibungen entsprechend den voraussichtlichen wirtschaftlichen Nutzungsdauern. Bei voraussichtlich dauernden Wertminderungen werden außerplanmäßige Abschreibungen vorgenommen. Seit dem Geschäftsjahr 2008 wird für selbständig nutzbare bewegliche Wirtschaftsgüter des Anlagevermögens entsprechend den gesetzlichen Vorschriften ein Sammelposten geführt.

Verbindlichkeiten

Verbindlichkeiten sind mit ihrem Erfüllungsbetrag angesetzt.

Rückstellungen

Die Rückstellungen für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen werden gemäß versicherungsmathematischen Grundsätzen nach der projizierten Einmalbeitragsmethode berechnet.

Der verwendete Zinssatz (durchschnittlicher Marktzins der vergangenen zehn Geschäftsjahre) beträgt 1,78%, die Steigerung der anrechenbaren Bezüge wird mit 2,64%, die Anpassung der laufenden Renten mit 3,02% angenommen. Als Sterbetafeln werden die Richttafeln 2018 G von Dr. Klaus Heubeck verwendet.

Die anderen langfristigen Rückstellungen sind grundsätzlich mit dem Erfüllungsbetrag gemäß § 253 Abs. 2 Satz 1 HGB gebildet.

Die Drohverlustrückstellung für einen von der Gesellschaft abgeschlossenen Zinsswap wird mit dem negativen Marktwert angesetzt.

Erträge und Aufwendungen werden periodengerecht abgegrenzt.

Erläuterungen zur Bilanz

Forderungen an Kreditinstitute

Die Forderungen an Kreditinstitute sind täglich fällig.

Forderungen an Kunden

Die Forderungen an Kunden sind täglich fällig und resultieren im Wesentlichen aus der Durchführung von Dienstleistungen im Rahmen der Finanzportfolioverwaltung.

Schuldverschreibungen und andere festverzinsliche Wertpapiere

Der Bilanzposten enthält eine in 2020 gekaufte festverzinsliche Anleihe eines Bundeslandes. Die Anleihe wird mit 2,15% verzinst und hat eine Laufzeit bis zum 21. März 2119. Bei einem Nominalbetrag von TEUR 111.950 belaufen sich die Anschaffungskosten einschließlich Agio von TEUR 83.582 auf TEUR 195.532. Das Agio wird linear auf die Restlaufzeit verteilt, die Belastung für das Berichtsjahr beträgt TEUR 846. Die Anleihe wurde zum Bilanzstichtag nach dem strengen Niederstwertprinzip um TEUR 73.915 auf den Marktwert von TEUR 81.495 abgeschrieben.

Die Stückzinsen sind zum Bilanzstichtag mit einem Betrag in Höhe von TEUR 1.879 abgegrenzt.

Das Wertpapier ist börsennotiert und bei der Bundesbank beleihbar. Die Gesellschaft ordnet die Anleihe der Liquiditätsreserve zu.

Aktien und andere nicht festverzinsliche Wertpapiere

Die Wertpapiere betreffen in Geldmarktfonds investierte Zahlungsmittel der Gesellschaft. Der Fonds wurde im Vorjahr von der Gesellschaft selbst aufgelegt und dient den Konzerngesellschaften der DWS-Gruppe zur Anlage von Liquidität. Die Bewertung mit dem aktuellen Kurs ergibt einen Buchwert am Bilanzstichtag in Höhe von TEUR 398.264 (Vj. TEUR 299.182). Die im Berichtsjahr getätigte Abschreibung nach dem strengen Niederstwertprinzip beträgt TEUR 866 (Vj. TEUR 867).

Daneben werden Anteile an einer Investmentaktiengesellschaft in Höhe von TEUR 50 (Vj. TEUR 50) ausgewiesen.

Die Gesellschaft ordnet die Fondsanteile und Anteile an einer Investmentaktiengesellschaft der Liquiditätsreserve zu.

Anlagevermögen

Entwicklung des Anlagevermögens siehe Anlage zum Anhang.

Anteile an verbundenen Unternehmen

Die Gesellschaft hält weiterhin einen 50%-igen Anteil an der DWS Investment S.A mit Sitz in Luxemburg. Die DWS Investment S.A. (DWS S.A.) ist eine Kapitalverwaltungsgesellschaft und weist zum Bilanzstichtag ein Eigenkapital von TEUR 389.248 (Vj. TEUR 386.459) aus. Der Jahresüberschuss des Geschäftsjahres 2022 beläuft sich auf TEUR 24.137 (Vj. TEUR 31.349). Der Buchwert beträgt unverändert TEUR 3.068 (Vj. TEUR 3.068). Die Gesellschaft ist nicht börsennotiert.

Vor dem Hintergrund des Verkaufs des DIP-Geschäfts werden seit 31. Januar 2022 Anteile an der DIP Management GmbH in Höhe von TEUR 29 gehalten.

Immaterielle Anlagewerte

Der Bilanzposten Immaterielle Anlagewerte weist die von Konzerngesellschaften erworbenen Fondsverwaltungsrechte in Höhe von TEUR 924 (Vj. TEUR 1.653) aus. Neben der planmäßigen Abschreibung über TEUR 684 wurde eine außerplanmäßige Abschreibung in Höhe von TEUR 45 vorgenommen, um den Buchwert der Fondsverwaltungsrechte nach dem Abfluss von weiteren verwalteten Fondsvermögen auf den niedrigeren Wert anzupassen.

Sonstige Vermögensgegenstände

Unter Sonstige Vermögensgegenstände werden insbesondere zwei an Konzerngesellschaften gewährte Kredite (TEUR 330.855; Vj. TEUR 329.480) und die Managementvergütung für den Monat Dezember 2022 (TEUR 92.994; Vj. TEUR 103.741) ausgewiesen.

Die Kredite sind wie folgt gewährt:

- an die DWS Group GmbH & Co. KGaA über TEUR 300.000 mit Fälligkeit am 15. April 2023 und mit einem negativen Zinssatz von 0,31%,
- an die DWS Beteiligungs GmbH über TEUR 30.000 mit Fälligkeit am 30. Juni 2023 und mit einem Zinssatz von 1,24%.

Die Zinsabgrenzung zum 31. Dezember 2022 beläuft sich auf insgesamt TEUR 855 (Vj. TEUR -520).

Rechnungsabgrenzungsposten

Der aktive Rechnungsabgrenzungsposten beinhaltet im Voraus gezahlte und auf die Vertragslaufzeit abgegrenzte Vertriebsprovisionen.

Verbindlichkeiten gegenüber Kreditinstituten

Die Verbindlichkeiten gegenüber Kreditinstituten betragen TEUR 2.461 (Vj. TEUR 5.106) und entfallen im Wesentlichen auf Rechnungen für erbrachte Serviceleistungen wegen Finanzportfolioverwaltung.

Sonstige Verbindlichkeiten

Die Sonstigen Verbindlichkeiten enthalten im Wesentlichen die Verbindlichkeit aus der Ergebnisabführung 2022 in Höhe von TEUR 518.974 (Vj. TEUR 678.449).

Rückstellung für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen

Die Gesellschaft hat im Rahmen der erstmaligen Anwendung der durch das Bilanzrechtsmodernisierungsgesetz (BilMoG) festgelegten neuen handelsrechtlichen Bilanzierungs- und Bewertungsregeln im Geschäftsjahr 2010 das Wahlrecht nach EGHGB Artikel 67 Abs. 1 Satz 1 und 2 nicht angewendet.

Die Rückstellung für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen beläuft sich auf TEUR 222.739 (Vj. TEUR 204.179). Der Unterschiedsbetrag nach § 253 Abs. 6 Satz 1 HGB beträgt zum Stichtag TEUR 10.669 (Vj. TEUR 13.913).

Das Deckungsvermögen beläuft sich zum Bilanzstichtag unter Ansatz zu Zeitwerten auf TEUR 161.164 (Vj. TEUR 189.935). Bei Anschaffungskosten des Deckungsvermögens von TEUR 181.983 ergibt sich ein niedrigerer Wert aus der Bewertung mit dem Zeitwert von TEUR 20.819.

Nach Verrechnung des Deckungsvermögens von TEUR 161.164 mit der Pensionsrückstellung in Höhe von TEUR 222.739 entsprechend den Vorgaben des BilMoG ergibt sich ein passiver Unterschiedsbetrag aus der Vermögensverrechnung in Höhe von TEUR 61.575 (Vj. TEUR 14.243).

Andere Rückstellungen

Die anderen Rückstellungen sind im Wesentlichen gebildet für Mindestzahlungszusagen aus Altersvorsorgeverträgen bzw. Wertsicherungsprodukten in Höhe von TEUR 104.399 (Vj. TEUR 139.526), für in Anspruch genommene konzerninterne Dienstleistungen in Höhe von TEUR 85.284 (Vj. TEUR 80.779), für Vertriebsprovisionen in Höhe von TEUR 58.090 (Vj. TEUR 62.357) und für an Mitarbeiter zu zahlende Sondervergütungen in Höhe von TEUR 39.888 (Vj. TEUR 42.438).

Im Zusammenhang mit den Mindestzahlungszusagen aus Altersvorsorgeprodukten hat die Gesellschaft im Vorjahr einen Zinsswap über einen Nominalbetrag von TEUR 120.000 und einer Laufzeit von 30 Jahren abgeschlossen, um sich gegen das Risiko weiter fallender Zinsen abzusichern. Der Zinsswap wurde im Berichtsjahr durch einen anderen Zinsswap abgelöst.

Auf Basis der Bewertung des Zinsswaps gemäß einer externen Bewertung zum Marktwert am Stichtag wurde eine Rückstellung in Höhe von TEUR 21.163 (Vj. TEUR 17.669) gebildet.

Weiterhin werden unter dieser Bilanzposition Rückstellungen wegen Vorruhestandsverpflichtungen in Höhe von TEUR 7.362 (Vj. TEUR 5.226) und Jubiläumsverpflichtungen in Höhe von TEUR 3.827 (Vj. TEUR 3.882) ausgewiesen.

Nachrangige Verbindlichkeiten

Die Gesellschaft hat zur Stärkung der Eigenkapitalbasis ein Nachrangdarlehen von der Konzernobergesellschaft in Höhe von TEUR 60.000 (Vj. TEUR 60.000) erhalten. Das Darlehen begründet nicht besicherte, nachrangige Verbindlichkeiten, die untereinander und mit allen anderen nachrangigen Verbindlichkeiten im gleichen Rang stehen.

Das Darlehen mit variabler Verzinsung und Kündigungsmöglichkeit (erstmalig zum 18. Dezember 2024) hat eine Laufzeit bis zum 18. Dezember 2029 und wird in der laufenden Zinsperiode mit 5,378% verzinst. Die Zinsen für jede Zinsperiode sind nachträglich an jedem 18. März, 18. Juni, 18. September und 18. Dezember zahlbar. Im Berichtsjahr sind Zinsaufwendungen in Höhe von TEUR 2.027 (Vj. TEUR 1.667) enthalten. Der Anteil der Verbindlichkeit aus der laufenden Zinsperiode beträgt TEUR 108 und ist am 18. März 2023 fällig.

Eigenkapital

Das Eigenkapital der DWS GmbH beträgt zum Bilanzstichtag TEUR 393.552.

Die Zusammensetzung ist wie folgt:

	2022 TEUR	2021 TEUR	Änderung TEUR
Gezeichnetes Kapital	115.000	115.000	0
Kapitalrücklage	129.725	129.725	0
Gewinnrücklage			
andere Gewinnrücklagen	140.173	140.173	0
andere Gewinnrücklagen aufgrund Ausschüttungssperre	8.654	8.654	0
	<u>148.827</u>	<u>148.827</u>	0
Eigenkapital lt. Bilanz	<u>393.552</u>	<u>393.552</u>	0
Nachrangdarlehen	60.000	60.000	0
	<u>453.552</u>	<u>453.552</u>	0
Eigenmittel (vor Abzugsposten)	<u>453.552</u>	<u>453.552</u>	0

Unter Berücksichtigung des bei der Konzernobergesellschaft aufgenommenen langfristigen Darlehens in Höhe von TEUR 60.000 belaufen sich die Eigenmittel (vor Abzugsposten) zum Bilanzstichtag auf TEUR 453.552.

Fremdwährungsposition

Zum Bilanzstichtag liegen auf ausländische Währung lautende Vermögensgegenstände über TEUR 544 (Vj. TEUR 672) vor. Die auf ausländische Währung lautenden Verbindlichkeiten betragen TEUR 983 (Vj. TEUR 983).

Angaben zu verbundenen Unternehmen

Am Bilanzstichtag bestehen Forderungen und Verbindlichkeiten an verbundene Unternehmen

	2022	2021
	<u>TEUR</u>	<u>TEUR</u>
Forderungen an Kreditinstitute	131.967	131.039
Forderungen an Kunden	105.861	178.114
Sonstige Vermögensgegenstände	377.107	379.358
Verbindlichkeiten gegenüber Kreditinstituten	552	4.814
Sonstige Verbindlichkeiten	568.403	705.918
Nachrangige Verbindlichkeiten	60.000	60.000

Forderungen und Verbindlichkeiten gegenüber der Gesellschafterin

Zum Bilanzstichtag bestehen Verbindlichkeiten in Höhe von TEUR 531.450 (Vj. TEUR 681.788) sowie Forderungen in Höhe von TEUR 30.264 (Vj. TEUR 30.346) gegenüber der Gesellschafterin.

Termingeschäfte

Vom vorgenannten Zinsswaps abgesehen, bestanden am Bilanzstichtag keine offenen Termingeschäfte zur Absicherung von Vermögensgegenständen und Schulden.

Erläuterungen zur Gewinn- und Verlustrechnung

Zinserträge aus Kredit- und Geldmarktgeschäften

Unter Zinserträge aus Kredit- und Geldmarktgeschäften sind aus den laufenden Bankguthaben sowohl positive Zinserträge in Höhe von TEUR 180 (Vj. TEUR 0) als auch negative Zinserträge aus der Minusverzinsung in Höhe von TEUR 1.516 (Vj. TEUR 2.213) ausgewiesen.

Zinserträge aus festverzinslichen Wertpapieren

Die Zinserträge aus festverzinslichen Wertpapieren umfassen in voller Höhe die Zinsen des in 2021 erworbenen fest verzinslichen Wertpapiers.

Laufende Erträge aus Anteilen an verbundenen Unternehmen

Der ausgewiesene Ertrag in Höhe von TEUR 16.236 (Vj. TEUR 78.579) enthält die Gewinnausschüttung der DWS S.A., Luxemburg, für das Geschäftsjahr 2021.

Provisionserträge

Die Provisionserträge enthalten im Wesentlichen Vergütungen für die Verwaltung eigener Fonds in Höhe von TEUR 1.128.947 (Vj. TEUR 1.158.304) sowie Vergütungen für Finanzportfolioverwaltung für in- und ausländische Kapitalverwaltungsgesellschaften in Höhe von TEUR 369.123 (Vj. TEUR 426.061). Weitere Provisionserträge stammen aus weiteren Vertriebsaktivitäten in Höhe von TEUR 166.937 (Vj. TEUR 170.731) sowie aus dem Absatz bzw. aus der Verwahrung von Fondsanteilen über TEUR 14.323 (Vj. TEUR 17.239).

Sonstige betriebliche Erträge

Die Sonstigen betrieblichen Erträge beinhalten im Wesentlichen Erträge aus dem Verkauf des DIP-Geschäftes an die MorgenFund GmbH in Höhe von TEUR 68.398 und aus der Auflösung von Rückstellungen für das Risiko der Inanspruchnahme aus gegebenen Kapitalerhaltungszusagen für Altersvorsorgeprodukte in Höhe von TEUR 32.952 (Vj. TEUR 14.082).

Zinsaufwendungen

Der Ausweis umfasst im Wesentlichen den Zinsaufwand für das Nachrangdarlehen in Höhe von TEUR 2.027 (Vj. TEUR 1.667).

Provisionsaufwendungen

Die Provisionsaufwendungen beinhalten im Wesentlichen Aufwendungen für den Vertrieb von Fondsanteilen in Höhe von TEUR 581.878 (Vj. TEUR 581.282) und Aufwendungen für den Bezug von Managementleistungen für die Fondsverwaltung in Höhe von TEUR 136.408 (Vj. TEUR 135.974).

Andere Verwaltungsaufwendungen

Unter den anderen Verwaltungsaufwendungen werden im Wesentlichen Aufwendungen für konzerninterne Leistungen über TEUR 239.908 (Vj. TEUR 203.896), für EDV-Dienstleistungen über TEUR 28.944 (Vj. TEUR 28.913), für den Bezug von Fremdleistungen über TEUR 23.350 (Vj. TEUR 27.711) und für Werbung über TEUR 20.329 (Vj. TEUR 18.849) ausgewiesen.

Sonstige betriebliche Aufwendungen

Die sonstigen betrieblichen Aufwendungen umfassen im Wesentlichen realisierte Verluste aus frühzeitig terminierten Zinsswaps sowie den Aufwand aus der Erhöhung der Rückstellung zur Bewertung neuabgeschlossener Zinsswaps in Höhe von insgesamt TEUR 46.643 zum Bilanzstichtag und den Saldo aus dem Aufwand aus der Aufzinsung von Pensionsverpflichtungen und ähnlichen langfristigen Verpflichtungen sowie dem Ertrag aus der Bewertung der Vermögensgegenstände der zugehörigen Deckungsvermögen mit dem Zeitwert in Höhe von TEUR 30.581 (Vj. TEUR 14.701).

	2022	2021
	<u>TEUR</u>	<u>TEUR</u>
Zinsaufwand aus Personalverpflichtungen		
aus den Pensionsverpflichtungen	28.456	14.645
aus Altersteilzeitverpflichtungen	0	1
aus den Vorruhestandsverpflichtungen	2.097	16
aus den Jubiläumsverpflichtungen	<u>28</u>	<u>84</u>
Summe Zinsaufwand	30.581	14.746
Der Zinsaufwand wird mit folgenden Erträgen der im Deckungsvermögen befindlichen Vermögensgegenstände verrechnet:		
Ergebnis aus der Bewertung zum Zeitwert der Pensionsfonds	0	45
Ergebnis aus dem Verkauf von Plan-Assets	<u>0</u>	<u>0</u>
Summe der Erträge aus dem Deckungsvermögen	0	45
Verbleibender Aufwand nach Saldierung des Zinsaufwandes mit den Erträgen aus dem Deckungsvermögen	<u>30.581</u>	<u>14.701</u>

Abschreibung und Wertberichtigungen auf Forderungen und bestimmte Wertpapiere

Die Abschreibungen entfallen auf langlaufende Wertpapiere, die im Zusammenhang mit einer Absicherung gegen Zinsrisiken gehalten werden.

Periodenfremde Aufwendungen und Erträge

Im Geschäftsjahr sind folgende periodenfremde Erträge und Aufwendungen vereinnahmt worden:

	2022 TEUR	2021 TEUR	Änderung TEUR
Dienstleistungen			
Erträge	1.123	0	1.123
Aufwendungen	5.858	0	5.858
Gesamtergebnis	-4.735	0	-4.735

Steueraufwand

Aufgrund des mit der Gesellschafterin in 1997 abgeschlossenen, in 2010 vollständig neu gefassten und zuletzt in 2020 geänderten Gewinnabführungsvertrages fallen für das Geschäftsjahr keine laufenden Steuern an.

Als oberste Organträgerin verzichtet die DWS Group GmbH & Co. KGaA auf eine Weiterbelastung des Ertragssteueraufwands an die Organgesellschaften.

Auf Grund eines Ergebnisabführungsvertrags abgeführte Gewinne

Der Gewinn des Geschäftsjahres beläuft sich auf TEUR 518.974 (Vj. TEUR 728.449).

Im Vorjahr erfolgte im Rahmen des bestehenden Gewinnabführungsvertrages unter Berücksichtigung einer Einstellung von TEUR 50.000 in die anderen Gewinnrücklagen eine Ergebnisabführung an die DWS Beteiligungs GmbH in Höhe von TEUR 678.449. Im Berichtsjahr beträgt die Ergebnisabführung an die DWS Beteiligungs GmbH TEUR 518.974.

Sonstige Angaben

Eventualverbindlichkeiten aus Gewährleistungsverträgen

Die DWS GmbH verwaltet im Rahmen der staatlich geförderten Altersvorsorge Riester-Fondssparpläne und garantiert den Kunden die Rückzahlung des vollen Nominalbetrages der Einzahlungen bei Endfälligkeit der Produkte. Die Wertpapierdepots werden mittels Strategien und Techniken der dynamischen Portfolioabsicherung (Constant Proportion Portfolio Insurance – CPPi) verwaltet. Diese Strategien und Techniken verwenden in Abhängigkeit des Marktniveaus einen regelbasierten Verteilungsmechanismus in Vermögenswerte mit gutem Rating und riskantere Vermögenswerte. Durch den Zuteilungsmechanismus zwischen beiden Komponenten wird das Risiko eines Kursrückgangs begrenzt. Die Kundeneinzahlungen werden in eine breite Palette von Aktien und festverzinslichen Wertpapieren oder in andere in der Produktdokumentation beschriebene Instrumente investiert.

Das Risiko für die Gesellschaft als Garantin tritt ein, falls der Depotwert zum jeweiligen Garantiedatum niedriger als der garantierte Betrag ist. Der erwartete Fehlbetrag wird während des Geschäftsjahres laufend ermittelt und mittels einer entsprechenden Rückstellung abgedeckt. Das Management wird in regelmäßigen Abständen über die Risikoposition aus diesen Produkten informiert.

Die zum 31. Dezember 2022 garantierten Altersvorsorgebeiträge belaufen sich auf TEUR 14.248.384 (Vj. TEUR 14.013.245). Die erwartete Unterdeckung von TEUR 104.399 (Vj. TEUR 139.526) ist durch eine entsprechende Rückstellung in voller Höhe gedeckt.

Bezüge der Geschäftsführung und des Aufsichtsrates

Die Gesamtbezüge der Geschäftsführung betragen TEUR 5.741 (Vj. TEUR 6.173), davon entfallen TEUR 1.291 (Vj. TEUR 1.460) auf aktienbasierte Vergütungen. Die Gesamtbezüge des Aufsichtsrates belaufen sich auf TEUR 703 (Vj. TEUR 648). An ehemalige Geschäftsführer oder deren Hinterbliebene wurden TEUR 1.149 (Vj. TEUR 1.166) gezahlt. Die für ehemalige Geschäftsführer gebildeten Pensionsrückstellungen betragen TEUR 16.007 (Vj. TEUR 15.557).

Zahl der Mitarbeiter

Die Gesellschaft beschäftigte im Jahresdurchschnitt 374 (Vj. 356) außertariflich angestellte und 103 (Vj. 123) tariflich angestellte Mitarbeiter und Mitarbeiterinnen.

Gesamthonorar des Abschlussprüfers

Im Berichtsjahr hat die Gesellschaft die Prüfungsgesellschaft gewechselt. Das Gesamthonorar des neuen Abschlussprüfers beträgt für Abschlussprüfungsleistungen des Geschäftsjahres TEUR 348.

Im Vorjahr ist die Angabe über das Gesamthonorar des Abschlussprüfers im Konzernabschluss der DWS Group GmbH & Co. KGaA enthalten gewesen, sodass die Angabe nach § 285 Nr. 17 HGB unterblieben ist.

Mitglieder des Aufsichtsrates

Dr. Stefan Hoops, Vorsitzender (ab 18.11.2022; Mitglied im Aufsichtsrat seit dem 08.09.2022)

Vorsitzender der Geschäftsführung der DWS Management GmbH (Persönlich haftende Gesellschafterin der DWS Group GmbH & Co. KGaA)

Dr. Asoka Wöhrmann, Vorsitzender (bis 09.06.2022)

Vorsitzender der Geschäftsführung der DWS Management GmbH

(Persönlich haftende Gesellschafterin der DWS Group GmbH & Co. KGaA)

Christof von Dryander, stellv. Vorsitzender
Senior Counsel der Cleary Gottlieb Steen & Hamilton LLP

Hans-Theo Franken
Vorsitzender des Aufsichtsrats der Deutsche Vermögensberatung Aktiengesellschaft DVAG

Dr. Alexander Ilgen
COO, DCO und CFO Deutsche Bank Private Bank

Dr. Stefan Marcinowski
Ehemaliges Mitglied des Vorstandes der BASF SE

Prof. Christian Strenger
Vorsitzender des Aufsichtsrates The Germany Funds

Elisabeth Weisenhorn (ab 10.02.2022)
Gesellschafterin und Geschäftsführerin der Portikus Investment GmbH

Gerhard Wiesheu
Mitglied des Vorstands des Bankhauses B. Metzler seel. Sohn & Co. AG

Susanne Zeidler
Ehemaliges Mitglied des Vorstands der Deutsche Beteiligungs AG

Mitglieder der Geschäftsführung

Manfred Bauer

Sprecher der Geschäftsführung der DWS Investment GmbH, Frankfurt
Geschäftsführer der DWS Management GmbH, Frankfurt
(Persönlich haftende Gesellschafterin der DWS Group GmbH & Co. KGaA)
Geschäftsführer der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt
Mitglied des Aufsichtsrats der DWS Alternatives GmbH, Frankfurt
Mitglied des Aufsichtsrats der DWS Investment S.A., Luxemburg

Dirk Görden

Geschäftsführer der DWS Investment GmbH, Frankfurt (bis 31.12.2022)
Geschäftsführer der DWS Management GmbH, Frankfurt
(Persönlich haftende Gesellschafterin der DWS Group GmbH & Co. KGaA)
Chief Executive Officer der DWS USA, USA (ab 01.01.2023)
Geschäftsführer der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt (bis 31.12.2022)
Mitglied des Aufsichtsrats der DWS Grundbesitz GmbH, Frankfurt (bis 31.12.2022)
Vorsitzender des Aufsichtsrats der DWS Alternatives GmbH, Frankfurt (bis 31.12.2022)

Stefan Kreuzkamp

Geschäftsführer der DWS Investment GmbH, Frankfurt (bis 31.12.2022)
Geschäftsführer der DWS Management GmbH, Frankfurt (bis 31.12.2022)
(Persönlich haftende Gesellschafterin der DWS Group GmbH & Co. KGaA)
Geschäftsführer der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt (bis 31.12.2022)
Mitglied des Aufsichtsrats der DWS Investment S.A., Luxemburg (bis 31.12.2022)

Dr. Matthias Liermann

Geschäftsführer der DWS Investment GmbH, Frankfurt
Sprecher der Geschäftsführung der DWS International GmbH, Frankfurt
Geschäftsführer der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt
Mitglied des Aufsichtsrats der DWS Investment S.A., Luxemburg

Petra Pflaum

Geschäftsführerin der DWS Investment GmbH, Frankfurt
Geschäftsführerin der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt

Vincenzo Vedda

Geschäftsführer der DWS Investment GmbH, Frankfurt (ab 17.02.2023)
Mitglied des Aufsichtsrats der MorgenFund GmbH, Frankfurt (ab 01.12.2022)

Mitglied des Verwaltungsrats der DWS CH AG, Zürich
Mitglied des Verwaltungsrats der db PrivateMandat Comfort SICAV, Luxemburg
Mitglied des Verwaltungsrats der db PBC SICAV, Luxemburg
Mitglied des Verwaltungsrats der DB PWM SICAV, Luxemburg
Mitglied des Verwaltungsrats der DB Vermögensfondsmandat SICAV, Luxemburg

Konzernzugehörigkeit

Alleinige Gesellschafterin der DWS Investment GmbH ist die DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, eine mittelbare Tochtergesellschaft der Deutsche Bank AG, Frankfurt am Main.

Die DWS Investment GmbH gehört zum Konzernverbund der Deutsche Bank AG und wird deshalb befreiend in den IFRS-Konzernabschluss der Deutsche Bank AG für den größten Kreis von Unternehmen der Deutsche Bank AG gemäß § 340i HGB i. V. mit den Vorschriften nach Art. 57 Satz 1 Nr. 2 EGHGB sowie Artikel 4 der Verordnung (EG) Nr. 1606/2002 des Europäischen Parlaments und Rates vom 19. Juli 2002 betreffend die Anwendung internationaler Rechnungslegungsstandards (ABl. EG Nr. L 243 S.1) einbezogen. Der Konzernabschluss der Deutsche Bank AG nach IFRS wird im Unternehmensregister bekannt gemacht.

Die DWS Investment GmbH gehört über die DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, einer unmittelbaren Tochtergesellschaft der DWS Group GmbH & Co. KGaA auch zum Konzernverbund der DWS Group GmbH & Co. KGaA, Frankfurt am Main, und wird deshalb auch in den IFRS-Konzernabschluss der DWS Group GmbH & Co. KGaA einbezogen. Der Konzernabschluss der DWS Group GmbH & Co. KGaA nach IFRS wird im Unternehmensregister bekannt gemacht.

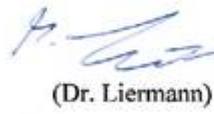
Ergebnisabführung

Das Ergebnis des Geschäftsjahres 2022 beläuft sich auf Euro 518.974.383,49 (Vj. TEUR 728.449). Im Vorjahr wurden TEUR 50.000 in die anderen Gewinnrücklagen eingestellt. Im Rahmen des bestehenden Gewinnabführungsvertrages erfolgt eine Ergebnisabführung an die DWS Beteiligungs GmbH in Höhe von Euro 518.974.383,49 (Vj. TEUR 678.449).

Frankfurt am Main, 3. März 2023

Die Geschäftsführung


(Bauer)


(Dr. Liermann)


(Pflaum)


(Vedda)

DWS Investment GmbH

	Entwicklung des Anlagevermögens									
	Anschaffungskosten			Abschreibungen			Buchwert	Buchwert		
	Stand	Zugänge	Abgänge	Stand	Stand	Zugänge	Abgänge	Stand		
	01.01.2022			31.12.2022	01.01.2022			31.12.2022	31.12.2022	31.12.2021
	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro
Anteile an verbundenen Unternehmen	3.067.751,29	28.500,00	0,00	3.096.251,29	0,00	0,00	0,00	0,00	3.096.251,29	3.067.751,29
Immaterielle Anlagewerte	17.354.321,61	0,00	0,00	17.354.321,61	15.701.547,25	729.270,16	0,00	16.430.817,41	923.504,20	1.652.774,36
Betriebs- und Geschäftsausstattung	4.014.854,99	45.942,17	0,00	4.060.797,16	2.943.081,99	342.143,17	0,00	3.285.225,16	775.572,00	1.071.773,00
	<u>24.436.927,89</u>	<u>74.442,17</u>	<u>0,00</u>	<u>24.511.370,06</u>	<u>18.644.629,24</u>	<u>1.071.413,33</u>	<u>0,00</u>	<u>19.716.042,57</u>	<u>4.795.327,49</u>	<u>5.792.298,65</u>

[次へ](#)

DWS Investment GmbH
Frankfurt am Main
Lagebericht
für das Geschäftsjahr 2022

1. Grundlagen der Gesellschaft - Geschäftsmodell

Die DWS Investment GmbH, eine 100%ige Tochtergesellschaft der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, verwaltet als Kapitalverwaltungsgesellschaft Sondervermögen vorwiegend für Privatkunden und deutsche institutionelle Kunden.

Die Gesellschaft gehört zu dem Konzernverbund der DWS Gruppe und wird in den Konzernabschluss der DWS Group GmbH & Co. KGaA („DWS KGaA“) nach IFRS einbezogen. Die Gesellschaft gehört weiterhin der Deutsche Bank Gruppe an und wird in den Konzernabschluss der Deutsche Bank AG nach IFRS einbezogen.

Innerhalb der DWS Gruppe konzentriert sich die DWS Investment GmbH nach wie vor auf das Fondsgeschäft und Produkte für institutionelle Kunden.

Das Produktangebot der Gesellschaft und anderer Gesellschaften der DWS Gruppe hilft Privatanlegern und Institutionen weltweit, ihr Vermögen zu schützen und zu mehren und bietet eine breite Palette an Investmentprodukten über alle wichtigen Anlageklassen.

Das Angebot der DWS Investment GmbH umfasst neben der Verwaltung von Sondervermögen auch das Angebot von Spar- und Entnahmeplänen sowie Produkte zur Altersvorsorge und deren Verwahrung. Weiterhin erbringt die Gesellschaft im Rahmen der Finanzportfolioverwaltung Leistungen an nationale und internationale Kunden. Ein Großteil der letztgenannten Tätigkeit entfällt auf andere Gesellschaften der DWS Gruppe.

Zur alleinigen Gesellschafterin DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, besteht ein Gewinnabführungsvertrag.

2. Wirtschaftsbericht

2.1. Gesamtwirtschaftliche und branchenbezogene Rahmenbedingungen

Die Weltwirtschaft erholte sich im Jahr 2022 weiter von der Pandemie, musste sich aber auch neuen gravierenden Herausforderungen stellen. Hier ist vor allem die russische Invasion in der Ukraine zu nennen, die zu einer deutlich erhöhten wirtschaftlichen und geopolitischen Unsicherheit führte. Nahrungsmittel- und Energiepreise zogen deutlich an und trieben damit die Inflation in den meisten Industrieländern in die Höhe. Die damit verbundenen höheren Kosten senkten die Wachstumserwartungen. Aber auch die Pandemie wirkte noch nach. Chinas Null-COVID-Strategie erwies sich als weitere Hürde für das globale Wachstum.

Insbesondere die hohe Abhängigkeit Europas von russischer Energie rückte in den Vordergrund. Viele Beobachter fürchteten eine schwere Rezession in Europa. Den Mitgliedsstaaten der Europäischen Union gelang es jedoch, sich erheblich schneller von Russland und seinen Energielieferungen zu lösen, als es die meisten erwartet hatten. Aufgrund massiver staatlicher Maßnahmen zur Unterstützung blieb der private Konsum trotz hoher Inflation weiterhin stabil.

Der grundlegende Inflationsdruck erhöhte sich im Laufe des Jahres, so dass die Inflationsrate in der Eurozone im Dezember 2022 auf 5,2% gegenüber dem Vorjahr stieg. Besonders kräftig fiel der Anstieg bei den Energie- und Nahrungsmittelpreisen aus. Die Europäische Zentralbank verabschiedete sich in 2022 von ihrer sehr expansiven Geldpolitik. Mit steigenden Inflationsraten wurden zunächst die Nettoanleihekäufe eingestellt. Anschließend folgte die erste Zinserhöhung im Juli 2022. Bis Ende des Jahres erhöhte die EZB die Leitzinsen um insgesamt 250 Basispunkte. Der Einlagensatz lag im Dezember 2022 bei 2,0%.

In den USA war das erste Halbjahr 2022 von einem rückläufigen Wirtschaftswachstum geprägt. Sonderfaktoren wie die Auflösung hoher Lagerbestände, erhöhte Importe und ein Rückgang der Wohnungsbauinvestitionen übertrafen eine sehr robuste private Nachfrage, die noch immer von den großzügigen Pandemie-Unterstützungszahlungen aus den Vorjahren profitierte. Die starke Nachfrage heizte den Inflationsdruck weiter an. Ein wichtiger Faktor für die Widerstandsfähigkeit der privaten Nachfrage dürften die äußerst robusten Arbeitsmärkte sein. Die Nachfrage nach Arbeitskräften übersteigt das Angebot deutlich und hält somit das Lohnwachstum auf dem höchsten Stand seit mehreren Jahrzehnten. Seit dem ersten Quartal 2022 reagierte die Fed auf diesen Inflationsdruck mit einer aggressiven Anhebung der Leitzinsen um insgesamt 4,25% im Gesamtjahr.

Die japanische Wirtschaft verzeichnete im Laufe des Jahres 2022 einen moderaten Aufwärtstrend, vor allem dank einer Erholung des privaten Konsums. Nachdem sich die Preissteigerungen im Jahresverlauf beschleunigten, lockerte die japanische Zentralbank ihre Maßnahmen zur Fixierung der langfristigen Zinskurve zum Jahresende.

Die Schwellenmärkte Asiens (ohne China) verzeichneten 2022 eine kräftige Wachstumserholung, die vor allem auf die Normalisierung nach der Pandemie zurückzuführen war. Die Inflation stieg fast überall in der Region aufgrund des Drucks auf die Energie- und / oder Lebensmittelpreise. Da es keinen starken Nachfragedruck durch Löhne oder fiskalische Expansion gab, blieben die Kerninflationen moderat. Es bestand daher auch keine Notwendigkeit für eine deutliche Straffung der Geldpolitik durch die Zentralbanken.

Die meisten asiatischen Länder bekamen die negativen Auswirkungen der chinesischen Konjunkturabschwächung im Jahr 2022 zu spüren. Es gab verschiedene Gründe für die Abschwächung, wie beispielsweise die stark politisch bedingte Abwärtskorrektur in bestimmten Bereichen des Immobiliensektors, die COVID-19-Politik, die das Wachstum stark belastete, und die Ungewissheit über den künftigen Kurs der chinesischen Politik nach dem Kongress der Kommunistischen Partei im Oktober. In China verbesserten sich im Dezember 2022 die Stimmung und die Aussichten für das Land durch die überraschend deutliche und

schnelle Kehrtwende in der COVID-19-Politik, die von den früheren strengen Restriktionen hin zu einer vollständigen Lockerung überging. Allerdings belasteten die erhebliche Unsicherheit und die freiwillige soziale Distanzierung aufgrund von Gesundheitsrisiken nach der Liberalisierung der COVID-19-Politik den Dienstleistungssektor im Dezember weiterhin stark.

In deutlichem Gegensatz zu 2021, als die dynamischen Aktienmärkte die Mittelzuflüsse und das verwaltete Vermögen in die Höhe trieben und das Vertrauen der Anleger nach der Pandemie zurückkehrte, wurden 2022 aufgrund des wirtschaftlichen und geopolitischen Gegenwinds, der die Anlagelandschaft beherrschte, Rückflüsse der Anleger und ein Rückgang des verwalteten Vermögens verzeichnet. Die Marktunsicherheit hat dazu geführt, dass sich die Anleger in Nord-, Mittel- und Südamerika sowie in der EMEA-Region aus dem Fondsmarkt zurückgezogen haben, wobei sowohl aktive Aktien- als auch Rentenstrategien beträchtliche Abflüsse verzeichneten. Die ESG-, passiven und viele Privatmarktstrategien verzeichneten jedoch im Laufe des Jahres trotz des Marktabschwungs und der sich eintrübenden globalen Wirtschaftsaussichten Zuflüsse.

Der deutsche Markt für Investmentfonds und Vermögensverwaltung zeigt gemäß der BVI Investmentstatistik für Dezember 2022 mit EUR 1.149,3 Mrd (Vj. EUR 1.346,1 Mrd) verwalteten Vermögen für Publikumsfonds einen Rückgang. Der Bereich der Spezialfonds zeigt mit EUR 1.787,2 Mrd. (Vj. EUR 2.052,0 Mrd) verwalteten Vermögen ebenfalls einen weiteren Rückgang.

2.2. Geschäftsverlauf

Am 31. Dezember 2022 verwaltete die Gesellschaft 89 (Vj. 90) Retailfonds und 149 (Vj. 159) institutionelle Fonds. Aufgrund des negativen Marktumfeldes hat sich das verwaltete Fondsvolumen von EUR 150,7 Mrd per 31.12.2021 auf EUR 128,5 Mrd per 31.12.2022 reduziert.

Gemäß BVI hat die DWS-Gruppe ihre Führungsrolle am deutschen Retailmarkt mit 26,6% (Vj. 26,1%) beibehalten und gehört auch im institutionellen Bereich weiterhin zu den führenden Anbietern.

Zum Stichtag 30. November 2022 hat die Gesellschaft ihr DIP-Geschäft an die MorgenFund GmbH verkauft. Die Anzahl der im Zusammenhang mit der Verwaltung von Investmentkonten geführten Depots für das Old Age Provision („OAP“)-Geschäft, welches nicht verkauft wurde, beläuft sich Ende Dezember 2022 auf Stück 0,6 Mio (Vj. Stück 0,7 Mio) mit einem Gesamtvolumen von EUR 6,3 Mrd (Vj. EUR 8,5 Mrd).

Die Gesellschaft beschäftigte in 2022 durchschnittlich 477 Mitarbeiterinnen und Mitarbeiter (Vj. 479).

Zentraler Fokus der Asset Management Strategie für die Gesellschaft liegt weiterhin in der Steuerung des Produktangebotes und der nachhaltigen Verbesserung der Produktperformance.

2.3. Ertragslage

Wesentliche finanzielle Ertragskomponenten der Gesellschaft sind volumenabhängige Provisionserträge aus der Verwaltung von Investmentfonds und dem Portfoliomanagement. Die Ertragslage der Gesellschaft hängt daher weitgehend von der Entwicklung der Kapitalmärkte, dem Anlageerfolg des Portfoliomanagements und dem Absatzerfolg ab.

Die Provisionserträge belaufen sich auf EUR 1.753,8 Mio (Vj. EUR 1.850,9 Mio) und enthalten im Wesentlichen Erträge aus der Verwaltung eigener Fonds bzw. Erträge aus der individuellen Vermögensverwaltung sowie dem Absatz bzw. der Verwahrung von Fondsanteilen. Der Rückgang gegenüber dem Vorjahr ist i.W. auf rückläufige Verwaltungsvergütungen eigener Fonds zurückzuführen. Für eine nähere Darstellung der Provisionserträge verweisen wir auf die Ausführungen im Anhang.

Die Provisionsaufwendungen beinhalten im Wesentlichen Aufwendungen für bestehende Vertriebs- und Beratungsk Kooperationen. Sie liegen 2022 korrespondierend mit der Ertragsentwicklung bei den Verwaltungsvergütungen mit EUR 723,0 Mio unter Vorjahresniveau (Vj. EUR 726,8 Mio).

Für eine nähere Darstellung der Provisionsaufwendungen verweisen wir auf die Darstellung im Anhang.

Das Nettoprovisionsergebnis – der bedeutsamste finanzielle Leistungsindikator der Gesellschaft – beläuft sich auf EUR 1.030,8 Mio (Vj. EUR 1.124,1 Mio). Der Rückgang gegenüber dem Vorjahr ist i.W. auf erhaltene Performance-Gebühren im Rahmen der individuellen Vermögensverwaltung, die in 2022 infolge nicht erfüllter Performance-Kriterien ausblieben, zurückzuführen. Dies wurde in der Vorjahresprognose bereits erwartet (Vorjahresprognose für 2022: ein in der Tendenz gegenüber 2021 stagnierendes bis rückläufiges Nettoprovisionsergebnis). Es wurde auch darauf hingewiesen, dass das Erreichen des Nettoprovisionsergebnisses aus 2021 auch stark abhängig davon sei, ob wieder im gleichen Umfang Performance Fees erzielt werden können.

Die allgemeinen Verwaltungsaufwendungen liegen mit EUR 480,0 Mio deutlich über dem Vorjahresniveau (Vj. EUR 407,9 Mio). Sie setzen sich aus Personalaufwand in Höhe von EUR 137,7 Mio (Vj. EUR 108,9 Mio) und anderen Verwaltungsaufwendungen in Höhe von EUR 342,3 Mio (Vj. 299,1 Mio) zusammen. Der Anstieg des Personalaufwands ist im Wesentlichen auf höhere Pensionsrückstellungen zurückzuführen. Die anderen Verwaltungsaufwendungen sind i.W. aufgrund gestiegener Konzernumlagen höher als im Vorjahr.

Das nach HGB bestimmte Aufwand-Nettoprovision-Verhältnis der Gesellschaft beträgt in 2022 46,7 % und liegt deutlich über dem Vorjahreswert von 36,4 %. Der Anstieg ist insbesondere auf die gestiegenen Konzernumlagen zurückzuführen.

Die Beteiligungserträge weisen die vereinnahmten Ausschüttungen der Tochtergesellschaft DWS Investment S.A., Luxemburg, aus. Diese sind gegenüber dem Vorjahr um EUR 62,3 Mio auf EUR 16,2 Mio zurückgegangen.

Die Ertragslage 2022 war im Wesentlichen von dem Rückgang des Nettoprovisionsergebnisses sowie dem Anstieg der Verwaltungsaufwendungen geprägt. Ein positiver Einmaleffekt in Höhe von EUR 68,4 Mio resultierte aus dem Verkauf des DIP-Geschäftes an die MorgenFund GmbH. Das Geschäftsjahr 2022 schließt mit einem Jahresergebnis von EUR 519,0 Mio ab (Vj.

EUR 728,4 Mio). Im Gegensatz zum Vorjahr erfolgte keine teilweise Thesaurierung und Dotierung der Gewinnrücklagen (Vj. EUR 50,0 Mio). Das Jahresergebnis ist aufgrund des bestehenden Gewinnabführungsvertrages an die DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, abzuführen.

2.4. Finanz- und Vermögenslage

Die Finanz- und Vermögenslage der Gesellschaft ist geordnet und im Wesentlichen geprägt durch ausreichendes Eigenkapital und eine gute Liquiditätssituation. Die Zahlungsfähigkeit der Gesellschaft war jederzeit gewährleistet.

Die wesentlichen Vermögenspositionen der Gesellschaft bestehen aus kurzfristigen Forderungen an Kreditinstitute und Kunden, aus Anleihen und Geldmarktfonds sowie aus Sonstigen Vermögensgegenständen (hier im Wesentlichen Darlehensgewährungen an Konzerngesellschaften sowie zum Bilanzstichtag noch nicht vereinnahmten Managementvergütungen aus dem Dezember des Geschäftsjahres in Höhe von insgesamt EUR 1.483,7 Mio (Vj. EUR 1.600,0 Mio). Der Anteil dieser wesentlichen Vermögenspositionen beläuft sich auf 99,3 % (Vj. 99,3 %) der Bilanzsumme.

Die Sonstigen Verbindlichkeiten in Höhe von EUR 597,3 Mio (Vj. EUR 720,6 Mio) bestehen im Wesentlichen aus kurz- bis mittelfristig konzerninternen Verbindlichkeiten unter welchen auch die Gewinnabführung an die DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, ausgewiesen ist. Der Rückgang der Sonstigen Verbindlichkeiten resultiert im Wesentlichen aus dem Rückgang der konzerninternen Verbindlichkeit für die Gewinnabführung.

Die Rückstellungen in Höhe von EUR 440,4 Mio (Vj. EUR 431,5 Mio) bestehen im Wesentlichen aus Rückstellungen im Personalbereich einschließlich Pensionsrückstellungen und übrigen Rückstellungen (u.a. für Vertriebsprovisionen und gruppeninterne Leistungsverrechnungen). Zudem hat die Gesellschaft im Zusammenhang mit der Auflegung von Altersvorsorgeprodukten Kapitalerhaltungszusagen gegeben, welche durch entsprechende Rückstellungen in voller Höhe gedeckt sind. Für eine nähere Darstellung der Eventualverbindlichkeiten aus diesen Kapitalerhaltungszusagen verweisen wir auf die Darstellung im Anhang. Die Rückstellungen sind ausreichend bemessen.

Das im Geschäftsjahr 2019 aufgenommene Nachrangdarlehen über EUR 60,0 Mio (Vj. EUR 60,0 Mio), welches als Maßnahme zur weiteren Kapitalunterstützung seitens der DWS Group GmbH & Co. KGaA ausgereicht wurde, ist eine langfristige Verbindlichkeit mit einer Laufzeit von 10 Jahren.

Das Eigenkapital der Gesellschaft beläuft sich wie im Vorjahr auf EUR 393,6 Mio.

Bei einer Bilanzsumme von rd. EUR 1.493,7 Mio (Vj. EUR 1.610,8 Mio) beläuft sich der Anteil des Eigenkapitals auf 26,3 % (Vj. 24,4 %).

Die Zahlungsfähigkeit der Gesellschaft war jederzeit gewährleistet und die Gesellschaft konnte ihre finanziellen Verpflichtungen jederzeit erfüllen. Der Überschuss der liquiden Mittel als Saldo der kurzfristigen Forderungen abzüglich der kurzfristigen Verbindlichkeiten beträgt zum Bilanzstichtag EUR 640,8 Mio (Vj. EUR 626,7 Mio). Dieses ist, wie der unterjährig erzielte

Liquiditätsüberschuss, auch im Wesentlichen in Guthaben bei der Deutsche Bank AG und Drittbanken sowie in Anleihen und in Geldmarktfonds angelegt.

Die Vermögens- und wirtschaftliche Lage der Gesellschaft ist geordnet und vor dem Hintergrund des geschilderten Markt- und Branchenumfelds als insgesamt zufriedenstellend zu beurteilen.

2.5. Finanzielle und nicht finanzielle Leistungsindikatoren

Der bedeutsamste finanzielle Leistungsindikator der Gesellschaft (Netto-Provisionsergebnis) wurde unter Punkt 2.3 – Ertragslage bereits diskutiert.

Bedeutsame nicht finanzielle Leistungsindikatoren sind neben dem verwalteten Fondsvolumen (siehe hierzu auch Punkt 2.2 – Geschäftsverlauf) die Performance der Produkte und das Serviceangebot. Die Planung und Steuerung dieser nicht finanziellen Leistungsindikatoren erfolgt jedoch auf gesellschaftsübergreifender Ebene der DWS Gruppe unter Einbindung der Geschäftsführung der DWS Investment GmbH.

Auch in 2022 erhielt die DWS Gruppe wieder eine Vielzahl von Auszeichnungen für die Produktplatte und den Stand des Serviceangebotes.

Eine weiterhin ziel- und leistungsorientierte Personalpolitik soll bei den Mitarbeiterinnen und Mitarbeitern auf allen Ebenen der Gesellschaft ein unternehmerisches Denken fördern. Unterstützt wird dies durch variable Vergütungskomponenten, die sich an der Erreichung individueller- und gruppenbezogener sowie langfristiger Leistungsziele orientieren. Darüber hinaus sind auch entsprechende Ausbildungs- und Fortbildungsmaßnahmen für die Mitarbeiterinnen und Mitarbeitern der Gesellschaft sowie der DWS Gruppe und der Deutsche Bank Gruppe zu nennen.

3. Prognose-, Chancen- und Risikobericht

3.1. Risikobericht

Die Geschäftstätigkeit der Gesellschaft erfordert ein adäquates Risikomanagementsystem. Hierbei ist die Gesellschaft insbesondere in das konzernweite Risikomanagementsystem der DWS Gruppe sowie der Deutsche Bank Gruppe einbezogen.

Das Risikomodell erfasst alle relevanten Risikoarten (insbesondere operationelle Risiken, Markt-, Adressausfall- und Liquiditätsrisiken) und den Risikomanagementprozess bestehend aus Risikostrategie, Identifizierung, Analyse, Kommunikation und Steuerung.

Die strategische Risikoausrichtung wird unter Berücksichtigung der konzernweiten Einbindung und Verantwortlichkeit der Geschäftsführung festgelegt. Die Risikoposition der Gesellschaft wird mittels systematischer Identifizierung von Risikopotentialen gesteuert. Zudem werden auf Basis regelmäßig durchgeführter Risikoanalysen und deren Kommunikation entsprechende Maßnahmen eingeleitet.

Die Gesellschaft hat die Compliance- und Audit-Funktionen an die DWS KGaA ausgelagert. Die Compliance und Audit-Abteilungen bei der DWS KGaA sind in das von der Deutsche Bank

Gruppe entwickelte Konzept für Compliance und Audit eingebunden und nehmen ihre Aufgaben unabhängig, risikoorientiert und prozessunabhängig wahr.

Risiken, welche den Fortbestand der Gesellschaft gefährden könnten, sind nicht erkennbar.

3.1.1. Nichtfinanzielle Risiken

Die nichtfinanziellen Risiken umfassen die operationellen Risiken sowie das Reputationsrisiko.

Operationelle Risiken stellen neben den Marktrisiken (letztere insbesondere im Zusammenhang mit Kapitalerhaltungszusagen, siehe 3.1.2.) das bedeutsamste Risiko für die Gesellschaft dar und resultieren insbesondere aus dem Vermögensverwaltungsgeschäft. Diese operationellen Risiken aus der Vermögensverwaltung können insbesondere aus aktiven Anlagegrenzverletzungen (aufgrund von gesetzlichen und vertraglichen Vorgaben), die eine Entschädigungsverpflichtung der Gesellschaft nach sich ziehen, resultieren und werden systemgesteuert im Rahmen einer Limitüberwachung geprüft.

Darüber hinaus ergeben sich Operationelle Risiken infolge der Unangemessenheit oder des Versagens von internen Prozessen, Systemen und Menschen. Außerdem können aufgrund von externen Ereignissen ebenfalls operationelle Risiken entstehen.

Die Identifizierung, Bewertung und Entscheidung zur aktiven Steuerung sind fortwährend zu gewährleisten. Die Gesellschaft unterliegt hierzu den Vorgaben der DWS Gruppe, die sich an den Vorgaben der Deutsche Bank Gruppe orientiert. Zur Quantifizierung der Operationellen Risiken wird auf DWS Gruppenebene ein Loss-Distribution Ansatz verwendet (dbLORE); auf DB Gruppenebene erfolgt ein fortgeschrittener Messansatz (Advanced Measurement Approach), der ebenfalls einem Loss-Distribution Ansatz entspricht. Das Rahmenwerk zum Operationellen Risiko Management umfasst dezidierte Richtlinien, Arbeitsanweisungen und entsprechende IT-Systeme. Zur Bewertung des operationellen Risikos werden diverse qualitative Konzepte angewendet. Daraus leiten sich entsprechende Maßnahmen zur Steuerung ab.

Im Zusammenhang mit COVID-19 steuerte die DWS aktiv die möglichen Auswirkungen für ihr Unternehmen und verfolgte die Entwicklung der Situation in allen Regionen genau, um ihre Mitarbeiter und Kunden zu schützen. Wenn erforderlich – zum Beispiel wenn neue Varianten auftreten oder während Phasen besonders dynamischen Infektionsgeschehens – kann über behördliche Quarantäneanforderungen hinausgehend Work-from-home angeordnet werden. Wir werden unseren risikobasierten Ansatz beibehalten und dabei die Empfehlungen der WHO und der nationalen Gesundheitsministerien nutzen, um die Gesundheit unserer Mitarbeiter zu erhalten und sicherzustellen, dass alle Bereiche unseres Unternehmens voll funktionsfähig bleiben.

Das Reputationsrisiko ist das Risiko möglicher Schäden an unserer Marke und unserem Ruf und das damit verbundene Risiko beziehungsweise die Auswirkung auf unsere Erträge, unser Kapital oder unsere Liquidität, welches durch Assoziation, Tätigkeit oder Untätigkeit entsteht, wenn diese von Stakeholdern als unangemessen, unmoralisch oder nicht mit unserem Verhaltenskodex (Code of Conduct) vereinbar wahrgenommen werden könnten.

Schlüsselkonzepte und Prozesse für die Steuerung der nichtfinanziellen Risiken, hier im Speziellen des Reputationsrisikos, sind die Verlustdatensammlung, Lesson-Learned-Analysen, Szenario-Analysen, die Überwachung einer nachhaltigen Risikominderung sowie Risiko- und Kontrollbewertungen.

3.1.2. Sonstige Risiken

Eine Verschlechterung des wirtschaftlichen Umfelds und eine erhöhte Unsicherheit könnten zu anhaltend erhöhter Volatilität und weiterem Abwärtspotenzial für die Finanzmärkte führen. Währenddessen könnten Anleger sinkenden Risikoappetit und eine, höheren Verkaufsdruck ausgesetzt sein, welche potenziell von Liquiditätsengpässen in bestimmten Marktsegmenten begleitet sein könnten. Diese Auswirkungen könnten zu niedrigeren Vermögenswerten und entsprechenden geringeren Gebühreneinnahmen auf den jeweiligen Märkten führen.

Die politische Unsicherheit und das geopolitische Risiko sind nach wie vor hoch und könnten ernster werden, vor allem in Bezug aufzunehmende Handelsbeschränkungen und eine stärkere Konzentration auf nationale Interessen. Die Erfahrungen mit Unterbrechungen der Lieferkette während der COVID-19-Pandemie hat Unternehmen und Staaten dazu veranlasst, stärker auf Eigenständigkeit zu setzen. Sicherheitsbedenken und Wettbewerb um die technologische Führung haben eine Politik begünstigt, die Sanktionen, Exportbeschränkungen und Subventionen in Bereichen wie Halbleiter und künstliche Intelligenz beinhaltet. Diese Entwicklungen erhöhen das Risiko einer Fragmentierung der Weltwirtschaft in Handelsblöcke, reduzieren die wirtschaftliche Effizienz und das Wachstum und tragen so zu einer höheren Inflation bei. Darüber hinaus erhöht die Abkehr vom Multilateralismus die Wahrscheinlichkeit einer Eskalation politischer Konflikte, vor allem um Taiwan, angesichts dessen Rolle in der Produktion und Innovation von hochentwickelten Chips.

Eine weitere Eskalation der russischen Invasion in der Ukraine würde Instabilität, Unsicherheit, Zerstörung und möglicherweise weitere Sanktionen mit weltweit nachteiligen Auswirkungen begünstigen. So könnten beispielsweise weitere Fortschritte der russischen Streitmacht in der Ukraine und verstärkte Drohungen oder sogar Angriffe auf NATO-Grenzstaaten die europäischen Risikoprämien erhöhen, das Vertrauen der Wirtschaft belasten und Preise von Rohstoffen wie Öl, Gas und Getreide erhöhen. Eine Flüchtlingskrise könnte sich in deutlich größerem Maßstab entfalten, was zu höherer Unsicherheit führen und die Finanzen, die Wirtschaft und die politische Stabilität der westeuropäischen Länder vor Herausforderungen stellen könnte. Auch russische Cyberangriffe auf die europäische Infrastruktur stellen weiterhin eine potenzielle Gefahr dar.

Andere Beispiele für politische Unsicherheit und geopolitische Risiken sind Ereignisse an regionalen Krisenherden, wie die Bedrohung durch Atomangriffe aus Nordkorea und die politischen Spannungen im Iran.

Alle oben genannten Risiken könnten zu hoher oder steigender Marktvolatilität und Risikoaversion beitragen. Sie könnten sich nachteilig auf Vermögenswerte auswirken, die makroökonomischen Risiken, Konflikten, Sanktionen oder Quellen der Unsicherheit ausgesetzt sind. Dies könnte zu einer negativen Performance und zu potenziellen Mittelabflüssen. Es könnten sich hieraus auch negative Auswirkungen auf unsere Geschäftsergebnisse, unsere Geschäftsaktivitäten mit oder in den jeweiligen Ländern und unsere strategischen Pläne ergeben.

Aufgrund der bestehenden Struktur der direkten bilanziellen Vermögenspositionen bestehen wenige direkte besondere Preisänderungs-, Ausfall- und Liquiditätsrisiken, die für die Beurteilung der Lage der Gesellschaft nach dem jetzigen Kenntnisstand von wesentlicher

Relevanz sind. Insbesondere erfolgt die Anlage des eigenen Vermögens im Rahmen von Tages- und Termingeldern bei der Deutsche Bank AG, bei Drittbanken sowie in Anleihen und Geldmarktfonds.

In Bezug auf COVID-19 werden keine nennenswerten Auswirkungen im Bereich Adressenausfallrisiken erwartet.

Die Gesellschaft hat zudem zur Deckung der Pensionsverpflichtungen Anteile an von der Gesellschaft aufgelegten Investmentvermögen, die an einen Vermögenstreuhänder übertragen wurden, erworben. Hierbei handelt es sich überwiegend um Anlagen in Rentenfonds. Der beizulegende Zeitwert dieses Deckungsvermögens wird für Rechnungslegungszwecke mit den Pensionsverpflichtungen verrechnet. Der Deckungsgrad der Pensionsverpflichtungen durch diese Vermögensgegenstände wird von der Gesellschaft regelmäßig überwacht. Zum Bilanzstichtag ergibt sich wie im Vorjahr ein Passivüberhang, der unter dem Bilanzposten Rückstellungen für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen ausgewiesen wird. Aus dem Bereich Pensionsverpflichtungen sind aktuell keine wesentlichen Risiken zu erwarten.

Im Zusammenhang mit den Kapitalerhaltungszusagen im Rahmen der Altersvorsorgeprodukte ergeben sich jedoch aufgrund der Zinsreagibilität dieser Produkte über mögliche Rückstellungszuführungen bzw. -auflösungen potentielle deutliche Belastungen für die Ertragslage bzw. deutliche positive Effekte auf die Ertragslage der Gesellschaft. Im Berichtsjahr wurden im Zusammenhang mit den Kapitalerhaltungszusagen von der Gesellschaft Rückstellungen in Höhe von EUR 32 Mio (Vj. EUR 15 Mio) ertragswirksam aufgelöst.

Um sich gegen die Auswirkungen weiter rückgehender Zinsen ökonomisch abzusichern, hat die Gesellschaft im Geschäftsjahr 2020 langlaufende festverzinsliche Anleihen erworben. , diese bestehen nach wie vor. Der ebenfalls in 2020 in diesem Zusammenhang abgeschlossene Zinsswap wurde im Geschäftsjahr beendet und durch einen neuen Zinsswap ersetzt.

Für die Gesellschaft liegen die Risiken der künftigen Ertragsentwicklung hauptsächlich in einer nicht erwartungsgemäßen Entwicklung ihres verwalteten Vermögens. Ursache hierfür können sowohl ein möglicher Rückgang der Marktpreise als auch aktive Mittelabzüge durch unsere Kunden sein.

Die Entwicklung des verwalteten Vermögens sowie der Mittelzu- und -abflüsse werden seitens der Gesellschaft kontinuierlich überwacht und der Geschäftsführung kommuniziert. Hierbei werden im Rahmen regelmäßiger Stresstestanalysen auf Gesellschaftsebene die wesentlichen Risiken erfasst und quantifiziert.

Im Rahmen der Risikotragfähigkeitsanalyse stellt die Gesellschaft das Risikodeckungskapital (hier: Höhe des haftenden Eigenkapitals zzgl. des um einen Risikoabschlag geminderten Planergebnisses der Folgeperiode sowie berücksichtigungsfähige Gewinnvorträge von Tochtergesellschaften abzgl. der regulatorischen Mindestkapitalanforderungen nach §25 (4) und (6) KAGB) dem Risikokapitalbedarf regelmäßig gegenüber (hier: ökonomisches Kapital der Gesellschaft auf Basis der identifizierten Risiken mit einem Konfidenzniveau von 99 %). Die Abdeckung des Risikokapitalbedarfs durch das Risikodeckungskapital war im Geschäftsjahr durchgehend gewährleistet. Zudem überwacht die Gesellschaft kontinuierlich die aufsichtsrechtlichen Kapitalanforderungen nach § 25 KAGB, um deren Einhaltung über das Vorhandensein ausreichender Eigenmittel sicherzustellen.

Zur weiteren Stärkung der Kapitalbasis wurde aus dem Ergebnis des Geschäftsjahres 2020 und 2021 jeweils ein Betrag von EUR 50 Mio einbehalten und in die Gewinnrücklage eingestellt. Im Geschäftsjahr 2022 wurde keine Thesaurierung vorgenommen, da die Kapitalbasis als ausreichend betrachtet wurde.

3.2. Prognosebericht (inkl. Chancenbericht)

Gemäß der Einschätzung von DB Research deutet viel daraufhin, dass die Inflationsraten in der Eurozone 2023 wieder sinken werden. Die Gaspreispbremse in Deutschland, aber auch Preisobergrenzen für Energie in anderen Ländern dürften sich dämpfend auswirken. Auf der anderen Seite stehen Lohnerhöhungen an, und viele Unternehmen werden weiter versuchen, die höheren Energiekosten an die Verbraucher weiterzugeben. Daher wird für 2023 mit einer durchschnittlichen Inflationsrate von 6,0% gerechnet. Damit würde das Inflationsziel der EZB weiter deutlich verfehlt werden. Weitere Zinserhöhungen werden höchstwahrscheinlich 2023 folgen. Zudem hat die EZB bereits angekündigt, die Leitzinsen für einen längeren Zeitraum auf dem höheren Niveau belassen zu wollen, um mittelfristig das Inflationsziel von 2% wieder zu erreichen.

Für die USA bleibt DB Research bei der Einschätzung einer milden Rezession, welche höchstwahrscheinlich in der ersten Hälfte des Jahres 2023 eintreten wird. Der leichte Abschwung der Wirtschaftstätigkeit dürfte die Bemühungen der Fed unterstützen, die Inflation wieder unter Kontrolle zu bringen. Die Entwicklung der Arbeitsmärkte wird wahrscheinlich ein Schlüsselement für die Geldpolitik im Jahr 2023 sein. Trotz der Erwartung einer leichten Rezession wird nicht mit einem hohen Anstieg der Arbeitslosigkeit gerechnet. Die Unternehmen werden höchstwahrscheinlich an ihren erfahrenen Arbeitskräften festhalten, da strukturelle Faktoren, wie die Demografie und eine geringere Zuwanderung, das Arbeitskräfteangebot in Grenzen halten dürften. Trotz dieser recht günstigen Aussichten für die Arbeitsmärkte wird davon ausgegangen, dass das Wachstum in 2023 unter dem Potenzial bleiben wird, da die Erholung von der wahrscheinlichen Rezession in der ersten Jahreshälfte nicht sehr kräftig ausfallen könnte.

Nach einem kräftigen Wachstum in UK im Jahr 2022 wird erwartet, dass das Jahr 2023 schwieriger wird, da der private Konsum durch Realeinkommensverluste und die Auswirkungen bisheriger Zinserhöhungen schwächer ausfallen wird. Die Zentralbank wird vermutlich dennoch ihren Kurs der Zinserhöhung in der ersten Jahreshälfte 2023 fortsetzen, um das Risiko einer Stärkung der Inflationserwartungen zu vermeiden. Im Jahr 2023 sollte sich der moderate Aufwärtstrend der japanischen Wirtschaft fortsetzen. Weitere Schritte zur Fixierung der langfristigen Zinskurve der japanischen Zentralbank sind im Verlauf von 2023 aufgrund der besseren Wirtschafts- und Inflationserwartungen wahrscheinlich, sie dürften jedoch vorsichtig erfolgen.

Die Erwartungen für 2023 für die asiatischen Schwellenländer gehen von einem überdurchschnittlichen Wachstum aus, während die Inflationsraten wahrscheinlich sinken werden. Die chinesische Volkswirtschaft könnte den Pandemie-Zyklus nach dem Ende der Null-COVID-19 Politik schneller durchlaufen. Damit könnte die Erholung ebenfalls früher einsetzen und ab dem zweiten Quartal an Fahrt gewinnen. Die Öffnung der Wirtschaft wird eine Nachholungsnachfrage auslösen, doch dürften sich die inflationären Auswirkungen in Grenzen halten, da die Nachfrage insgesamt durch einen Arbeitsmarkt, der sich von einem schwachen Niveau erholt, und durch das Fehlen umfangreicher direkter Finanzhilfen für die Verbraucher gebremst wird. Es wird erwartet, dass eine breit angelegte politische Unterstützung

zu einer Stabilisierung des angeschlagenen Immobiliensektors führen wird, aber sie wird Jahr 2023 nicht zum Wachstum beitragen. Da der Aufschwung in China vor allem von der Verbrauchernachfrage und einem Umschwung im Dienstleistungssektor abhängt, dürften die Auswirkungen auf die übrigen asiatischen Schwellenländer vor allem durch den niedrigeren Zustrom von Touristen aus China zu spüren sein. Die Länder des Verbandes Südostasiatischer Nationen (ASEAN) werden auch von den starken Handelsbeziehungen zwischen ASEAN und China und den hohen Investitionen aus China profitieren. Südkorea und Taiwan werden im Jahr 2023 jedoch unter ihrer starken Abhängigkeit von der Nachfrage in den Industrieländern leiden, die sich wahrscheinlich abschwächen wird. Die Aussichten für Indien sind aus strukturellen Gründen positiv, z. B. wegen der robusten Kundenbasis und der Reformen, die die Wettbewerbsfähigkeit fördern.

Auch wenn die Märkte in nächster Zeit wahrscheinlich turbulent bleiben werden, sind die längerfristigen Aussichten für die Branche weiterhin positiv. Wir glauben, dass einige bedeutende Trends weiterhin Chancen für die Vermögensverwaltungsbranche bieten, sie aber auch vor Herausforderungen stellen werden:

Umwelt, Soziales und Unternehmensführung (Environment, Social and Governance)

In der Vermögensverwaltungsbranche spielen ESG-Themen und die Begrenzung der Erderwärmung auf 1,5°C eine immer wichtigere Rolle. Trotz der hohen Nachfrage von Privatanlegern und institutionellen Investoren gibt es jedoch weiterhin erhebliche Herausforderungen, da es keine standardisierte Terminologie gibt, Bedenken bezüglich „Greenwashing“ bestehen, die Zahl der Regulierungen zunimmt und der Zugang zu umfassenden Daten fehlt. Während der Klimawandel nach wie vor ein wichtiges Thema ist, haben Diversität und Inklusion nach der Pandemie an Bedeutung gewonnen und auch der Erhalt der Biodiversität verzeichnet ein erhöhtes Interesse.

Digitalisierung

Die Einführung neuer Technologien, einschließlich künstlicher Intelligenz und Blockchain, führt zu umfassenden Veränderungen in den Bereichen Vertrieb, Produktauswahl und Back-Office. Die Digitalisierung führt auch zum Entstehen neuer Anlageklassen und kann möglicherweise zur „Standardisierung“ einiger alternativer Anlageklassen führen, da die Vermögensverwalter die Tokenisierung nutzen wollen.

Maßgeschneiderte Lösungen

Der zunehmende Anspruch und die wachsende Sachkunde der Anleger in Verbindung mit neuen Technologien ermöglichen es Vermögensverwaltern, maßgeschneiderte Lösungen wie beispielsweise direkte Indexierung, die bisher nur institutionellen Anlegern zur Verfügung standen auch für Privatpersonen anzubieten. Im Bereich der alternativen Anlagen hat die zunehmende Öffnung der privaten Kapitalmärkte für Privatanleger („Retailisierung“) dazu geführt, dass Vermögensverwalter Produkte speziell für Kleinanleger entwickeln. Auf dem Altersvorsorgemarkt besteht eine anhaltende Nachfrage nach Vorsorgelösungen, die durch die Verlagerung von der Leistungs- zur Beitragszusage angetrieben wird.

Geografische Vermögensverlagerung

Schwellenländer, vor allem in Asien, werden auch in Zukunft die treibende Kraft des Branchenwachstums sein und den Vermögensverwaltern neue Möglichkeiten bieten, da lokale Anleger ihren Anlagehorizont global erweitern und nach Anlagelösungen suchen.

Marktkonsolidierung

Größenvorteile und die Fähigkeit, vielfältige Anlagemöglichkeiten anzubieten, werden für Vermögensverwalter immer wichtiger, um sich erfolgreich auf dem Markt behaupten zu

können. Die Konsolidierung der Branche wird sich wahrscheinlich mit „Bolt-on“-Deals fortsetzen, vor allem in den Bereichen alternativer Anlagen, ESG und Technologie.

Margenentwicklung

Wir erwarten einen anhaltenden Druck auf Gebühren und Kosten, da die Kosten für Regulierung und Compliance steigen, der Wettbewerb auf dem Markt zunimmt und die Anleger weiterhin zu großvolumigen passiven Produkten mit niedrigeren Gebühren tendieren.

Innerhalb der DWS Gruppe bietet die Gesellschaft privaten und institutionellen Kunden auch 2023 ein umfassendes Leistungsspektrum.

Die Angebotspalette als Kapitalverwaltungsgesellschaft nach dem KAGB umfasst im Wesentlichen die Verwaltung von inländischen Investmentvermögen sowie die Finanzportfolioverwaltung für nationale und internationale Kunden.

In Anbetracht der aktuellen makroökonomischen Aussichten und der Herausforderungen in der Vermögensverwaltungsbranche werden wir uns auf innovative Produkte und Dienstleistungen konzentrieren, mit denen wir uns von unseren Wettbewerbern abheben und unseren Kunden den besten Service bieten können. Gleichzeitig werden wir einen disziplinierten Kostenansatz verfolgen und in Wachstum und Transformation investieren. Wir gehen weiterhin davon aus, dass unser breit diversifiziertes Geschäftsmodell uns einen angemessenen Schutz vor den aktuellen Herausforderungen bietet.

Trotz unseres vorsichtigen makroökonomischen Ausblicks gehen wir davon aus, dass unser verwaltetes Vermögen Ende 2023 höher sein wird, da wir weitere Nettomittelzuflüsse erwarten.

Das niedrige Marktniveau Ende 2022 wird noch Einfluss auf das Jahr 2023 zeigen und zusammen mit dem anhaltende Margendruck voraussichtlich dazu führen, dass im Jahr 2023 das Nettoprovisionsergebnis gegenüber 2022 leicht sinken wird.

Gravierende Änderungen an den Märkten und in den Rahmenbedingungen können zu einer anderen Einschätzung führen. Dabei verweisen wir insbesondere auf die unter den sonstigen Risiken beschriebene politische und wirtschaftliche Unsicherheit und geopolitische Risiken.

2023 wird für uns ein Übergangsjahr sein, da die Ausgaben für das Transformationsprogramm der DWS-Gruppe in diesem Jahr ihren Höhepunkt erreichen werden. Infolgedessen gehen wir davon aus, dass unsere Kosten im Jahr 2023 deutlich höher sein werden als im Vorjahr und das Ergebnis vor Steuern im Jahr 2023 auch durch den Wegfall des Einmaleffekts aus dem Verkauf des DIP-Geschäfts voraussichtlich signifikant niedriger ausfallen wird.

Unter den derzeit gegebenen rechtlichen und steuerlichen Rahmenbedingungen ist kein Gefährdungspotential für die Ertrags- und Vermögensentwicklung der Gesellschaft zu erkennen.

Frankfurt am Main, den 3. März 2023

Die Geschäftsführung


(Bauer)


(Dr. Liermann)


(Pflaum)


(Vedda)

独立監査人の監査報告書

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マイン 御中

監査意見

私たちは、デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーの年次財務諸表、すなわち、2022年12月31日現在の貸借対照表及び2022年1月1日から12月31日までの事業年度に係る損益計算書、並びに会計処理及び評価の方法を含む注記について監査を行った。私たちはまた、2022年1月1日から12月31日までの事業年度に係る状況報告書についても監査を行った。

私たちの意見では、私たちの監査での発見事項に基づいて、

- 添付の年次財務諸表は、会社に適用されるドイツ商法の規定に全ての重要な点において準拠しており、また、ドイツにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して会社の2022年12月31日現在の財政状態及び2022年1月1日から12月31日までの事業年度に係る経営成績についての真実かつ公正な概観を与えている。
- 添付の状況報告書は、全体としての会社の現在の状況を示している。当該状況報告書は、全ての重要な点において、年次財務諸表と整合し、ドイツの法規制を遵守し、将来の発展に関する機会及びリスクを適正に表示している。

商法第322条第3項第1文に従って、私たちは、私たちの監査の結果、当該年次財務諸表及び状況報告書の法令遵守に関するいかなる除外事項もなかったことを宣言する。

監査意見の基礎

私たちは、商法第317条及びドイツ経済監査士協会（IDW）により設定されたドイツにおいて一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して、当該年次財務諸表及び状況報告書の監査を行った。当該規定及び基準に基づく私たちの責任は、本報告書の「年次財務諸表及び状況報告書の監査に対する監査人の責任」の項において詳述している。私たちは、ドイツの商法及び職業上の法令に準拠して会社から独立しており、これらの要求に従って、私たちのドイツでのその他の職業上の責任を果たした。私たちは、当該年次財務諸表及び状況報告書に関する意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

年次財務諸表及び状況報告書に対する法定代理人及び監査役会の責任

法定代理人は、会社に適用されるドイツ商法の規定に全ての重要な点において準拠した年次財務諸表の作成、並びに年次財務諸表がドイツにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して会社の資産、財政状態及び経営成績に関する真実かつ公正な概観を与えることに対する責任を負う。法定代理人はまた、ドイツにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して、不正（不正な財務報告若しくは資産の流用）又は誤謬のいずれによるかを問わず重要な虚偽表示のない年次財務諸表の作成を可能とするために法定代理人が必要と判断する内部統制に対する責任も負う。

年次財務諸表の作成に当たり、法定代理人は、継続企業として存続するための会社の能力を評価する責任を負う。また、法定代理人はまた、該当する場合に、継続企業に関する事項を開示する責任を負う。さらに、法定代理人は、事実的又は法的状況と矛盾しない場合、継続事業を前提とした財務報告を行う責任を負う。

法定代理人はまた、全体として、会社の状況に関する適正な概観を与え、全ての重要な点において年次財務諸表と整合し、ドイツの法的要求を遵守し、かつ将来の発展に関する機会及びリスクを適正に表示する、状況報告書の作成に対する責任を負う。さらに、法定代理人は、適用されるドイツの法的要求に準拠した状況報告書の作成、及び状況報告書における陳述のための十分かつ適切な証拠の提供を可能とするために法定代理人が必要と判断する事前措置及び対策（システム）に対する責任も負う。

監査委員会は、年次財務諸表及び状況報告書の作成に関する会社の会計プロセスを監視する責任を負う。

年次財務諸表及び状況報告書の監査に対する監査人の責任

私たちの目的は、全体としての年次財務諸表に不正又は誤謬のいずれによるかを問わず重要な虚偽表示がないかどうかについて、及び全体としての状況報告書が会社の状況に関する正確な概観を与え、全ての重要な点において年次財務諸表と整合し、監査で入手した発見事項と一致し、ドイツの法的要求を遵守し、かつ将来の発展に関する機会及びリスクを適正に表示しているかどうかについての合理的な保証を得ること、並びに年次財務諸表及び状況報告書に関する私たちの監査意見を含む監査報告書を発行することである。

合理的保証は高い水準の保証であるが、商法第317条及びドイツ経済監査士協会（IDW）により設定されたドイツにおいて一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して行った監査が、重要な虚偽表示を常に発見できることを保証するものではない。虚偽表示は不正又は誤謬によって生じる可能性があり、個別に又は集計すると、利用者が当該年次財務諸表及び状況報告書に基づいて行う経済的意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要であると判断される。

監査の過程を通じて、私たちは、職業的専門家としての判断を行使し、批判的な姿勢を維持するほか、以下を行う。

- 不正又は誤謬のいずれによるかを問わず、年次財務諸表及び状況報告書に係る重要な虚偽表示リスクを識別及び評価し、当該リスクに対応する監査手続を立案及び実施し、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示を発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示を発見できないリスクよりも高くなる。その理由は、不正には共謀、偽造、意図的な除外、虚偽の陳述又は内部統制の無効化を伴うことがあるためである。
- 状況に応じた適切な監査手続を立案するために、年次財務諸表の監査に関連する内部統制システム並びに状況報告書の監査に関連する事前措置及び対策について理解する。但し、これは、会社のこれらのシステムの有効性に対する監査意見を表明するためではない。
- 法定代理人が適用した会計方針の適切性、並びに法定代理人が行った見積り及び関連する開示の合理性について評価する。
- 法定代理人が継続企業を前提とした会計処理を適用したことの適切性について結論付け、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業として存続するための会社の能力に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関する重要な不確実性が存在するかどうかについて結論付ける。私たちは、重要な不確実性が存在すると結論付けた場合には、監査報告書において年次財務諸表及び状況報告書での関連する情報に注意を喚起するか、又はそうした情報が不十分である場合には除外事項付意見を表明することが求められる。私たちの結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいている。但し、将来の事象又は状況により、会社が継続企業として存続できなくなる場合もある。
- 年次財務諸表の開示を含む全般的な表示、構成及び内容、並びに年次財務諸表がドイツにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に従って会社の資産、財政状態及び経営成績についての真実かつ公正な概観を与えるような方法で基礎となる取引や事象を表示しているかどうかを評価する。
- 状況報告書と年次財務諸表との整合性、当該報告書の法令の遵守状況、及び当該報告書が与える会社の状況に関する概観を評価する。
- 状況報告書において法定代理人が記載した将来に関する記述に対して監査手続を実施する。十分かつ適切な監査証拠に基づいて、特に、法定代理人が将来に関する記述の基礎として使用した重要な仮定を評価し、将来に関する記述がこれらの仮定から適切に導き出されていることを評価する。私たちは、将来に関する記述及び基礎となる仮定に関する個別の監査意見を表明しない。将来の事象が将来に関する記述から逸脱する重要かつ不可避のリスクが存在する。

私たちは、特に、計画した監査の範囲とその実施時期、及び監査上の重要な発見事項(監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む。)について統治責任者と協議する。

フランクフルト・アム・マイン、2023年3月6日

マザー・ゲーエムベーハー & Co. KG

ヴィルトシャフツプリューフングスゲゼルシャフト

シュトイアベラートゥングゲゼルシャフト

マルクス・モルフエルト

経済監査士

シュテファン・ノイヴァイラー

経済監査士

[次へ](#)

„Bestätigungsvermerk des unabhängigen Abschlussprüfers

An die DWS Investment GmbH, Frankfurt am Main

Prüfungsurteile

Wir haben den Jahresabschluss der DWS Investment GmbH - bestehend aus der Bilanz zum 31. Dezember 2022 und der Gewinn- und Verlustrechnung für das Geschäftsjahr vom 1. Januar 2022 bis zum 31. Dezember 2022 sowie dem Anhang, einschließlich der Darstellung der Bilanzierungs- und Bewertungsmethoden - geprüft. Darüber hinaus haben wir den Lagebericht der DWS Investment GmbH für das Geschäftsjahr vom 1. Januar 2022 bis zum 31. Dezember 2022 geprüft.

Nach unserer Beurteilung aufgrund der bei der Prüfung gewonnenen Erkenntnisse

- entspricht der beigefügte Jahresabschluss in allen wesentlichen Belangen den deutschen, für Kapitalgesellschaften geltenden handelsrechtlichen Vorschriften und vermittelt unter Beachtung der deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Buchführung ein den tatsächlichen Verhältnissen entsprechendes Bild der Vermögens- und Finanzlage der Gesellschaft zum 31. Dezember 2022 sowie ihrer Ertragslage für das Geschäftsjahr vom 1. Januar 2022 bis zum 31. Dezember 2022 und
- vermittelt der beigefügte Lagebericht insgesamt ein zutreffendes Bild von der Lage der Gesellschaft. In allen wesentlichen Belangen steht dieser Lagebericht in Einklang mit dem Jahresabschluss, entspricht den deutschen gesetzlichen Vorschriften und stellt die Chancen und Risiken der zukünftigen Entwicklung zutreffend dar.

Gemäß § 322 Abs. 3 Satz 1 HGB erklären wir, dass unsere Prüfung zu keinen Einwendungen gegen die Ordnungsmäßigkeit des Jahresabschlusses und des Lageberichts geführt hat.

Grundlage für die Prüfungsurteile

Wir haben unsere Prüfung des Jahresabschlusses und des Lageberichts in Übereinstimmung mit § 317 HGB unter Beachtung der vom Institut der Wirtschaftsprüfer (IDW) festgestellten deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Abschlussprüfung durchgeführt. Unsere Verantwortung nach diesen Vorschriften und Grundsätzen ist im Abschnitt „Verantwortung des Abschlussprüfers für die Prüfung des Jahresabschlusses und des Lageberichts“ unseres Bestätigungsvermerks weitergehend beschrieben. Wir sind von dem Unternehmen unabhängig in Übereinstimmung mit den deutschen handelsrechtlichen und berufsrechtlichen Vorschriften und haben unsere sonstigen deutschen Berufspflichten in Übereinstimmung mit diesen Anforderungen erfüllt. Wir sind der Auffassung, dass die von uns erlangten Prüfungsnachweise ausreichend und geeignet sind, um als Grundlage für unsere Prüfungsurteile zum Jahresabschluss und zum Lagebericht zu dienen.

Verantwortung der gesetzlichen Vertreter und des Aufsichtsrats für den Jahresabschluss und den Lagebericht

Die gesetzlichen Vertreter sind verantwortlich für die Aufstellung des Jahresabschlusses, der den deutschen, für Kapitalgesellschaften geltenden handelsrechtlichen Vorschriften in allen wesentlichen Belangen entspricht, und dafür, dass der Jahresabschluss unter Beachtung der deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Buchführung ein den tatsächlichen Verhältnissen entsprechendes Bild der Vermögens-, Finanz- und Ertragslage der Gesellschaft vermittelt. Ferner sind die gesetzlichen Vertreter verantwortlich für die internen Kontrollen, die sie in Übereinstimmung mit den deutschen Grundsätzen ordnungsmäßiger Buchführung als notwendig bestimmt haben, um die Aufstellung eines Jahresabschlusses zu ermöglichen, der frei von wesentlichen falschen Darstellungen aufgrund von dolosen Handlungen (d.h. Manipulationen der Rechnungslegung und Vermögensschädigungen) oder Irrtümern ist.

Bei der Aufstellung des Jahresabschlusses sind die gesetzlichen Vertreter dafür verantwortlich, die Fähigkeit der Gesellschaft zur Fortführung der Unternehmenstätigkeit zu beurteilen. Des Weiteren haben sie die Verantwortung, Sachverhalte in Zusammenhang mit der Fortführung der Unternehmenstätigkeit, sofern einschlägig, anzugeben. Darüber hinaus sind sie dafür verantwortlich, auf der Grundlage des Rechnungslegungsgrundsatzes der Fortführung der Unternehmenstätigkeit zu bilanzieren, sofern dem nicht tatsächliche oder rechtliche Gegebenheiten entgegenstehen.

Außerdem sind die gesetzlichen Vertreter verantwortlich für die Aufstellung des Lageberichts, der insgesamt ein zutreffendes Bild von der Lage der Gesellschaft vermittelt sowie in allen wesentlichen Belangen mit dem Jahresabschluss in Einklang steht, den deutschen gesetzlichen Vorschriften entspricht und die Chancen und Risiken der zukünftigen Entwicklung zutreffend darstellt. Ferner sind die gesetzlichen Vertreter verantwortlich für die Vorkehrungen und Maßnahmen (Systeme), die sie als notwendig erachtet haben, um die Aufstellung eines Lageberichts in Übereinstimmung mit den anzuwendenden deutschen gesetzlichen Vorschriften zu ermöglichen, und um ausreichende geeignete Nachweise für die Aussagen im Lagebericht erbringen zu können.

Der Aufsichtsrat ist verantwortlich für die Überwachung des Rechnungslegungsprozesses der Gesellschaft zur Aufstellung des Jahresabschlusses und des Lageberichts.

Verantwortung des Abschlussprüfers für die Prüfung des Jahresabschlusses und des Lageberichts

Unsere Zielsetzung ist, hinreichende Sicherheit darüber zu erlangen, ob der Jahresabschluss als Ganzes frei von wesentlichen falschen Darstellungen aufgrund von dolosen Handlungen oder Irrtümern ist, und ob der Lagebericht insgesamt ein zutreffendes Bild von der Lage der Gesellschaft vermittelt sowie in allen wesentlichen Belangen mit dem Jahresabschluss sowie mit den bei der Prüfung gewonnenen Erkenntnissen in Einklang steht, den deutschen gesetzlichen Vorschriften entspricht und die Chancen und Risiken der zukünftigen Entwicklung zutreffend darstellt, sowie einen Bestätigungsvermerk zu erteilen, der unsere Prüfungsurteile zum Jahresabschluss und zum Lagebericht beinhaltet.

Hinreichende Sicherheit ist ein hohes Maß an Sicherheit, aber keine Garantie dafür, dass eine in Übereinstimmung mit § 317 HGB unter Beachtung der vom Institut der Wirtschaftsprüfer (IDW) festgestellten deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Abschlussprüfung durchgeführte Prüfung eine wesentliche falsche Darstellung stets aufdeckt. Falsche Darstellungen können aus dolosen Handlungen oder Irrtümern resultieren und werden als wesentlich angesehen, wenn vernünftigerweise erwartet werden könnte, dass sie einzeln oder insgesamt die auf der Grundlage dieses Jahresabschlusses und Lageberichts getroffenen wirtschaftlichen Entscheidungen von Adressaten beeinflussen.

Während der Prüfung üben wir pflichtgemäßes Ermessen aus und bewahren eine kritische Grundhaltung.

Darüber hinaus

- identifizieren und beurteilen wir die Risiken wesentlicher falscher Darstellungen im Jahresabschluss und im Lagebericht aufgrund von dolosen Handlungen oder Irrtümern, planen und führen Prüfungshandlungen als Reaktion auf diese Risiken durch sowie erlangen Prüfungsnachweise, die ausreichend und geeignet sind, um als Grundlage für unsere Prüfungsurteile zu dienen. Das Risiko, dass aus dolosen Handlungen resultierende wesentliche falsche Darstellungen nicht aufgedeckt werden, ist höher als das Risiko, dass aus Irrtümern resultierende wesentliche falsche Darstellungen nicht aufgedeckt werden, da dolose Handlungen kollusives Zusammenwirken, Fälschungen, beabsichtigte Unvollständigkeiten, irreführende Darstellungen bzw. das Außerkraftsetzen interner Kontrollen beinhalten können.
- gewinnen wir ein Verständnis von dem für die Prüfung des Jahresabschlusses relevanten internen Kontrollsystem und den für die Prüfung des Lageberichts relevanten Vorkehrungen und Maßnahmen, um Prüfungshandlungen zu planen, die unter den gegebenen Umständen angemessen sind, jedoch nicht mit dem Ziel, ein Prüfungsurteil zur Wirksamkeit dieser Systeme der Gesellschaft abzugeben.
- beurteilen wir die Angemessenheit der von den gesetzlichen Vertretern angewandten Rechnungslegungsmethoden sowie die Vertretbarkeit der von den gesetzlichen Vertretern dargestellten geschätzten Werte und damit zusammenhängenden Angaben.
- ziehen wir Schlussfolgerungen über die Angemessenheit des von den gesetzlichen Vertretern angewandten Rechnungslegungsgrundsatzes der Fortführung der Unternehmenstätigkeit sowie, auf der Grundlage der erlangten Prüfungsnachweise, ob eine wesentliche Unsicherheit im Zusammenhang mit Ereignissen oder Gegebenheiten besteht, die bedeutsame Zweifel an der Fähigkeit der Gesellschaft zur Fortführung der Unternehmenstätigkeit aufwerfen können. Falls wir zu dem Schluss kommen, dass eine wesentliche Unsicherheit besteht, sind wir verpflichtet, im Bestätigungsvermerk auf die dazugehörigen Angaben im Jahresabschluss und im Lagebericht aufmerksam zu machen oder, falls diese Angaben unangemessen sind, unser jeweiliges Prüfungsurteil zu modifizieren. Wir ziehen unsere Schlussfolgerungen auf der Grundlage der bis zum Datum unseres Bestätigungsvermerks erlangten Prüfungsnachweise. Zukünftige Ereignisse oder Gegebenheiten können jedoch dazu führen, dass die Gesellschaft ihre Unternehmenstätigkeit nicht mehr fortführen kann.
- beurteilen wir Darstellung, Aufbau und Inhalt des Jahresabschlusses insgesamt einschließlich der Angaben sowie ob der Jahresabschluss die zugrunde liegenden Geschäftsvorfälle und Ereignisse so darstellt, dass der Jahresabschluss unter Beachtung der deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Buchführung ein den tatsächlichen Verhältnissen entsprechendes Bild der Vermögens-, Finanz- und Ertragslage der Gesellschaft vermittelt.
- beurteilen wir den Einklang des Lageberichts mit dem Jahresabschluss, seine Gesetzesentsprechung und das von ihm vermittelte Bild von der Lage des Unternehmens.
- führen wir Prüfungshandlungen zu den von den gesetzlichen Vertretern dargestellten zukunftsorientierten Angaben im Lagebericht durch. Auf Basis ausreichender geeigneter Prüfungsnachweise vollziehen wir dabei insbesondere die den zukunftsorientierten Angaben von den gesetzlichen Vertretern zugrunde gelegten bedeutsamen Annahmen nach und beurteilen die sachgerechte Ableitung der zukunftsorientierten Angaben aus diesen Annahmen. Ein eigenständiges Prüfungsurteil zu den zukunftsorientierten Angaben sowie zu den zugrunde liegenden Annahmen geben wir nicht ab. Es besteht ein erhebliches unvermeidbares Risiko, dass künftige Ereignisse wesentlich von den zukunftsorientierten Angaben abweichen.

Wir erörtern mit den für die Überwachung Verantwortlichen unter anderem den geplanten Umfang und die Zeitplanung der Prüfung sowie bedeutsame Prüfungsfeststellungen, einschließlich etwaiger bedeutsamer Mängel im internen Kontrollsystem, die wir während unserer Prüfung feststellen.

Frankfurt am Main, 6. März 2023

Mazars GmbH & Co. KG

Wirtschaftsprüfungsgesellschaft

Steuerberatungsgesellschaft

Markus Morfeld

Wirtschaftsprüfer

Steffen Neuweiler

Wirtschaftsprüfer